

年 報

第 2 号

平成9 (1997) 年度



滋賀県立
琵琶湖博物館

LAKE BIWA MUSEUM

ごあいさつ

滋賀県立琵琶湖博物館は、御承知のとおり、「湖と人間」という主題をもった博物館、すなわち「湖と人間との関係の総体を歴史的に見る」博物館として、1996年4月に設置され、その10月に開館しました。

開館以来幸いに好評で、251日目にあたる1997年8月19日に、来館者は100万人を突破し、また、それから年度末の1998年3月31日までに、さらに46万人あまりが来館されました。最初の数か月は、滋賀県内からの人々が半数以上を占めたようですが、しだいに県外の人々が増え、近畿地区からの来館者が特に多いと聞いています。この数は、開館前に予想したものを大幅に上回っており、先ずはたいへん嬉しいことです。しかし同時に、来て下さった方々に本当に満足して貰えているのかどうか、心配でもあります。ただ、1年半ばかりのあいだに2回・3回、あるいはそれ以上来られた方もかなりあるようで、ある程度には満足して貰っているのではないかと、いささか愁眉を開いてもいます。また見学会・観察会など、その他のいろいろな博物館活動にも、多数の人々が参加して下さっています。

開館から半年ほどのあいだには、さまざまなかたちの記念シンポジウムを、3回ばかり開いてきました。そして1997年6月には、22か国より55名の研究者を招き、国内の研究者や行政関係者、さらには多くの一般住民の参加を得て、「世界古代湖会議：古代湖における生物と文化の多様性」を開催しました。この会議では、既成の学問分野を超えて、知見の交換と情報交流が行なわれ、また、自然と文化をつなぐ新しい分野の発展に先鞭をつけたものとして、国際的にも高い評価を受けました。中でも一般住民の方々が、会議で発表をされただけでなく、研究者などの発表に対する討論にも、積極的に参加されたことには、国内外からとくに大きな反響を呼びました。参加をして下さった多くの方々に深い敬意を表するとともに、住民の参加によって博物館を作り上げようとして来た、準備室段階以来の努力が、ある程度は実ったものでもあろうかと、いささかは自負しているところです。

博物館の開館から3年目の現在、つねに新しい博物館を目指して次々と発展して行くために、館員一同努力を続けております。この年報も、知識や情報を交換し、語り合う場の一つになることを期待して発刊するものです。辛口のご批判を含め、琵琶湖博物館にいらっしゃるのお力添えを頂けますよう、皆さまにお願い致します。

1999年2月

滋賀県立琵琶湖博物館

館長 川那部 浩哉

目 次

ごあいさつ

I 博物館活動の概要	1
1 展示および開館記念事業	1
(1) 常設展示	1
(2) 企画展示	3
(3) 水族企画展示	5
(4) 開館記念事業	6
(5) 主な印刷物	12
2 研究・調査活動	13
(1) 総合研究	13
(2) 共同研究	13
(3) 専門研究	13
(4) 公表された主な成果	14
(5) 研究補助を受けた研究	16
(6) 研究部出版物	16
(7) 琵琶湖博物館特別研究セミナー	16
(8) 研究員の受入れ	17
(9) 海外調査	17
3 交流・サービス活動	19
(1) 観察会・見学会等	19
(2) 質問コーナー・フロアトーク・ガーデントーク	20
(3) 教職員等研修会	21
(4) 博物館実習	22
(5) 博物館体験学習	23
(6) 体験学習プログラムの開発	23
(7) 「体験学習の日」の活動	24
(8) 博物館入門セミナー、博物館講座、専門講座	25
(9) 田んぼ体験教室	27
(10) フィールドレポーター	28
(11) 夏休み相談室	29
(12) 交流センター関連印刷物の発行	29
(13) 滋賀県立琵琶湖博物館における（仮称）博物館ボランティア制度について	30

4	情報活動	31
(1)	館内の情報センター（図書情報利用室）	31
(2)	通信網を利用した館外サービス	31
(3)	資料整備	32
(4)	情報システムの構築	35
5	資料整備活動	36
(1)	方針	36
(2)	収蔵資料点数	36
(3)	新規資料収集	38
(4)	資料整理	38
(5)	燻蒸	39
(6)	保存環境調査	39
(7)	収蔵資料の貸出	40
(8)	資料調査研究員	40
(9)	資料評価委員	40
II	利用状況	42
1	平成9年度入館者数	42
(1)	総入館者数	42
(2)	学校等入館者数	43
(3)	曜日別入館者数	44
2	来館者アンケート調査結果報告	45
(1)	経過	45
(2)	結果	45
3	新聞掲載（取材）記録	47
4	雑誌関係記事掲載（取材）記録	52
5	テレビ放映・ラジオ放送（取材）記録	55
III	組織および運営	56
1	組織	56
2	職員	57
3	予算	59
4	滋賀県立琵琶湖博物館協議会	60
IV	平成9年度博物館ダイアリー	61
V	博物館利用のご案内	66

I 博物館活動の概要

1 展示および開館記念事業

(1) 常設展示

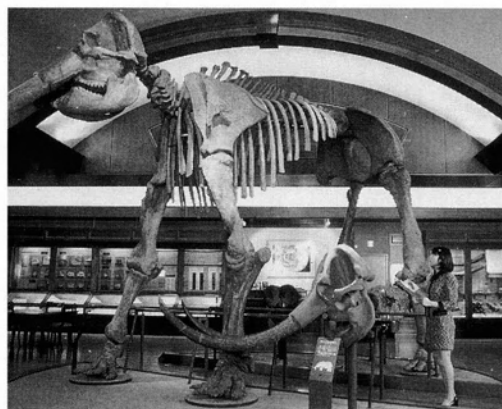
展示室の概要

・展示室A 「琵琶湖のおいたち」

2億5千万年前から現在までの滋賀の大地の歴史と、移動してきた琵琶湖の各時代ごとの様子、すんでいた生物、現在との関係等を展示。

高さ4メートルのコウガゾウの骨格や、当時のメタセコイヤの森をジオラマで再現し、その中を歩くことができる。また、展示を作る過程を表現するために、研究室を再現して機器や化石等にふれる展示を行っている。

特に、鉱物や化石の標本をじっくりと見たい人のためには、コレクションギャラリーとして、周囲に標本を配置してテーブルを置き、カウンターでは、化石や鉱物標本の入った箱の貸出しサービスを行っている。



・展示室B 「人と琵琶湖の歴史」

人びとのくらしと琵琶湖とのむすびつきの深まりを見ていくために、今日まで続いている琵琶湖と人間とのかかわりの歴史を、湖底遺跡、湖上交通、漁労の様子および治水・利水への取り組みなどを通して展示している。

丸子船の展示の前では「丸子船交流デスク」を設置し、丸子船に関する情報を収集すると同時に、来館者との交流をはかっている。



・展示室C 「湖の環境と人びとのくらし」

昭和30年代は、人のくらしの視点から見ると、日本の歴史の中で最も急激な変化があった時代である。稲作農耕が始まって以後、長く続いてきた「自然と結びついた」けれども厳しい労働が伴った時代と、便利になった現在の暮らしとを比較している。

人の暮らしと、暮らしをとりまく自然に改めて目を向けて、自分にとってはどういう暮らしが望ましいのか、環境の多様さを理解しながら、自分が選ぶ環境を考えてみようという展示を行っている。

まず、導入部では、琵琶湖を中心とした近畿圏の1万分の1の航空写真をタイルに焼いて床全面に敷き詰めた展示で、滋賀県の土地利用や河川網を知り、琵琶湖周辺的环境を考える前提としよう

としている。展示室内には、彦根市の民家を移築して昭和30年代の水利用をみたり、その暮らしを支えていた里山や田畑、ため池のジオラマを見たり、湖に生きる人達の自然の見方、琵琶湖の水の動きを展示している。「環境とは何だろう」という展示では学芸員が自分が考える環境観を展示し、それとともに環境を考える材料を見ながら、自分はどのような環境をいい環境と思うのかを考えるためのきっかけづくりを行っている。



・展示室C 「淡水の生き物たち」(水族展示)

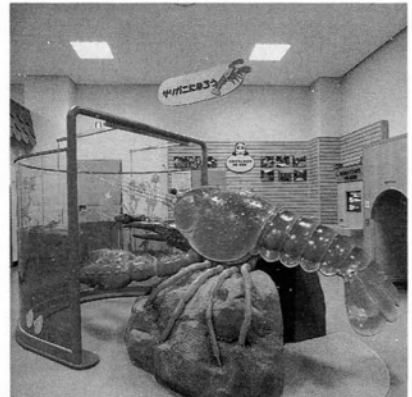
水族を琵琶湖の環境を考えるための一つの材料として位置付け、C展示の一部とした世界で最大級の淡水魚の水族展示で、琵琶湖の魚を環境ごとに生態展示し、また、個々の魚の姿をじっくりと見る小さな水槽や、世界のおもな湖の淡水魚を紹介している。



・ディスカバリールーム

就学前の子どもから小学校を中心に、大人まで幅広く楽しめる体験型の展示室。

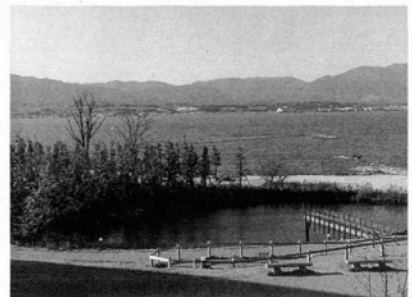
特に子どもたちには、この展示室を入口に将来にわたる博物館のファンになってもらいたいと考えて作られた展示室である。18のコーナーがあり、常駐する博物館職員のきめこまかな対応により触って遊びながら博物館のテーマを感じることができる。



・屋外展示

2ヘクタール弱の屋外面積を太古の森、縄文・弥生の森、上流・中流・下流の川、池などを造り、展示と野外の自然とを結びつけるような空間としている。

また、生活実験工房や田畑を使い、様々な体験活動を行った。



・展示交流員

博物館来館者との交流、安全確保、展示の説明、受付(観覧料の徴収)を目的に展示室およびエントランスに配置されている博物館運営スタッフである。新しく入ったスタッフには、学芸員が3週間にわたり博物館の施設および展示等の研修を実施したほか、全員を対象に開館時間前に20分間程度、担当学芸員が各展示室コーナーの説明をするという形で毎日研修を続けて能力開発に努めた。また、今年度からは交流員が特定の展示コーナーについて説明する「交流員とはなそう」を試行し、来館者から好評を得た。

・水族の飼育管理・保護増殖

水族展示を円滑にするため、水族収集、飼育管理（調餌、給餌等）、設備の運転・維持管理、水槽の清掃、繁殖等を行った。なお、主な繁殖魚は資料整備活動で紹介している。

(2) 企画展示

・「古代湖の世界」

期 間：平成9年6月15日(日)～8月31日(日) 67日間

料 金：大人 1,000円 高校・大学生 800円 小・中学生 500円

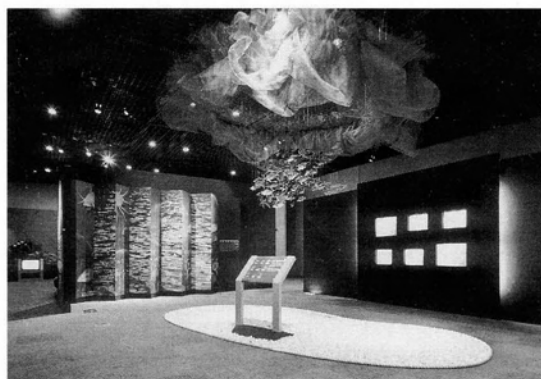
観覧者数：29,856人

展示概要：世界各地にある「古代湖」と呼ばれる歴史の古い湖は、生物の豊かさとともに人間の生活とも深く関わり、地域独自の文化を育んできた。この企画展示では、琵琶湖をはじめとする世界の古代湖に生息する生き物、および湖と人々の関わりを通して「湖と人間」の関係を体感し学べる場を提供した。

展示内容：1. エントランスゾーン・古代湖への誘い
2. テーマゾーン・古代湖って何？
3. ツアーゾーン・バイカル湖
4. ツアーゾーン・ティティカカ湖
5. ツアーゾーン・アフリカン・グレートレイクス
6. ツアーゾーン・世界の文化的古代湖



ティティカカ湖のトトラ



テーマゾーン・古代湖って何？の展示風景

・開館1周年企画展「私とあなたの琵琶湖アルバム」

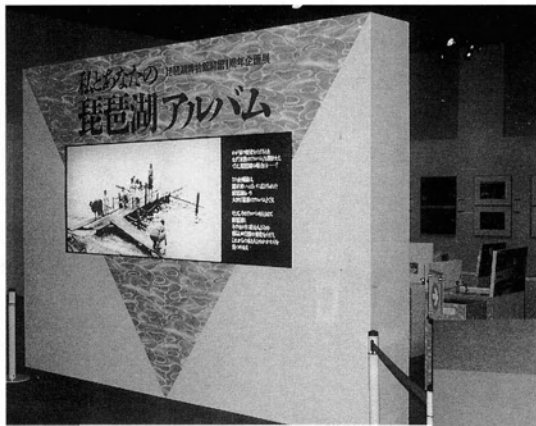
期 間：平成9年10月10日(金)～平成10年2月1日(日) 90日間

料 金：大人 800円 高校・大学生 650円 小・中学生 400円

観覧者数：25,061人

展示概要：ここ40年間に水をめぐる私たちの暮らしや身近な自然は大きく変わってしまった。その変化を写真でたどりながら、これからの水と人とのつきあい方を考えていこうとしたものである。1950～60年代の頃と現在の同じ場所の琵琶湖やその周辺での暮らしの様子を写真で対比する展示を中心に構成した。新旧の対比をしている写真は73点で、それらを「暮らしの水」「なりわいの水」「災いの水」「変わりゆく水」という、水との様々な関わりの場面から見られるようにした。また、昔の子どもたちの水遊びの場面を捉えた写真を中心に「子どもと水」という展示コーナーや、琵琶湖博物館のある鳥丸半島の昔の様子を古い写真をもとにたどる「昔と今の鳥丸半島」コーナー、ある小学校に残された100年余りの卒業写真を一堂に展示する「小学校のアルバム」コーナーも設けた。その他に、画像データベースのインターネットによるテスト公開(約1万点の画像)を行い、コンピュータによる写真の検索を体験してもらった。

展示資料：古写真88点、新旧対比写真73点、鳥丸半島今昔写真17点、小谷小学校写真92点
計 270点



(3) 水族企画展示

- ・「古代湖の世界」 — 個性的な生き物たち —

期 間：平成9年6月15日(日)～8月31日(日) 67日間

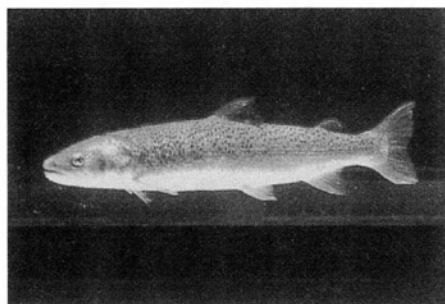
数十万年以上もの歴史をもつ古代湖は、長い歴史の中で独特の生物が進化する舞台となってきた。本展では、世界の古代湖の中でも特にバイカル湖（ロシア）、マラウイ湖（アフリカ）、およびタンガニーカ湖（アフリカ）をとりあげ、これらの湖に生息する生物を魚類を中心に紹介するとともに、それぞれの湖にすむ生物と人間の生活との関わりについてもパネル・図録を用いて紹介した。



- ・「北海道の淡水魚」日本の淡水魚シリーズ①

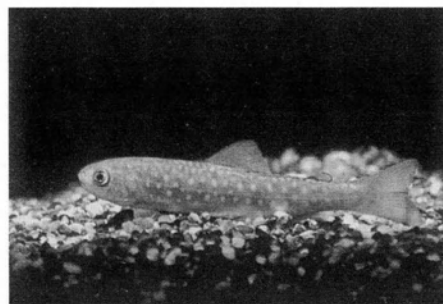
期 間：平成9年11月2日(日)～平成10年2月5日(木) 73日間

北海道にはサケ科魚類をはじめ、本州では見られない淡水魚がたくさん分布している。本展では、これらの淡水魚を水槽展示するとともに北海道の淡水魚類相の成立過程や人々の暮らしとサケの関係についても写真パネルや図録で詳しく紹介した。

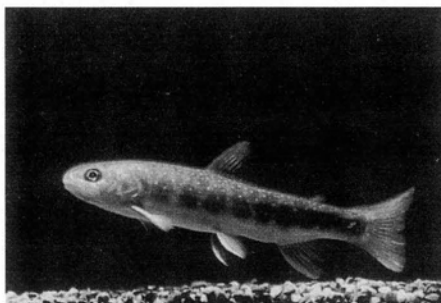


イトウ

サケの仲間



アメマス



オショロコマ

(4) 開館記念事業

- ・世界古代湖会議（ICAL'97） 平成9年6月21日～29日

世界の古代湖は、生物の多様性ととも地域文化の多様性をはぐくんでいる。この会議の目的は、世界の古代湖の生物と文化の多様性に関する情報や知識を交換しながら湖の生物的・文化的な価値を改めて発見することにあった。会議は、準備コア会議（21日、22日）、本会議（22日～28日）、市民フォーラム（29日）の3部構成で開催された。この会議では、国内外の自然科学系の研究者と人文社会科学系の研究者が一つの会議で発表・討論し、そこに住民も参加するという新たな試みが行われ、300名の参加を得るとともに、また150に近い多様な発表、分野・立場を超えた活発な討論や交流が行われるなど多くののみりをもたらした。会議の最終日には、世界古代湖会議共同宣言を採択して、成功裏に終了した。

以下に、日程・参加者内訳・共同宣言文を記す（詳細については『世界湖古代湖会議 I C A L '97 報告書』参照）。

- 主 催：世界古代湖会議実行委員会
- テ ー マ：「古代湖における生物と文化の多様性」
- 開催期間：平成9年6月21日～6月29日
- 会 場：滋賀県立琵琶湖博物館および滋賀県立大学
- 参加者：300名

1) 構成別参加者 (名)

区 分	準備コア会議	本 会 議	市民フォーラム
海外研究者	28	55	250
国内研究者		131	
一般参加者	—	88	
行政関係者等	—	26	
計	28	300	250

2) 国別参加者 計 22カ国 55名

国 名	参加数(名)	国 名	参加数(名)
ベルギー	3	スイス	2
ブラジル	1	オランダ	1
カナダ	3	ウガンダ	4
中国	6	イギリス	6
ハンガリー	1	アメリカ	3
アイルランド	2	フランス	1
イスラエル	3	ポーランド	1
マラウイ	4	フィンランド	1
ニュージーランド	1	ザンビア	1
ノルウェー	1	コンゴ	1
ロシア	7	マレーシア	1

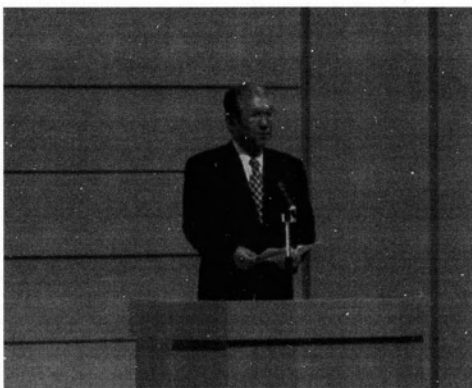
3) 発表数

(題)

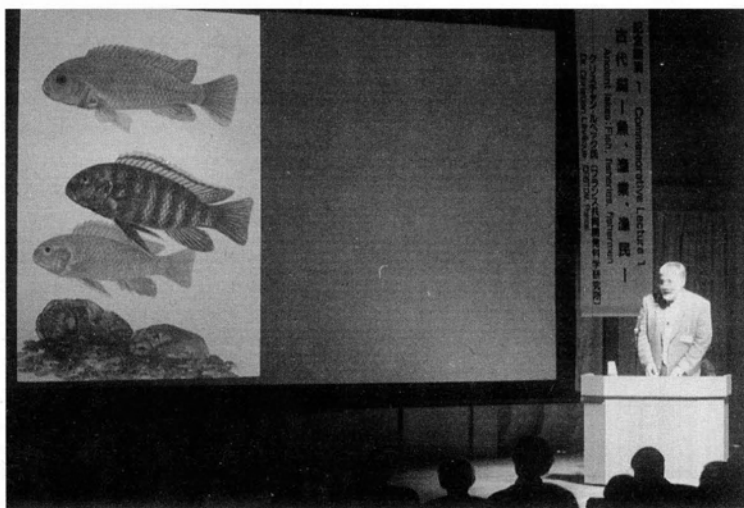
区 分	国 内	国 外	計
記 念 講 演	1	1	2
全 体 会 議	6	14	20
分 科 会	34	32	66
市民フォーラム	0	3	3
(口頭発表合計)	41	50	91
ポスター発表	24	30	54
(発表数合計)	65	80	145

世界古代湖会議日程

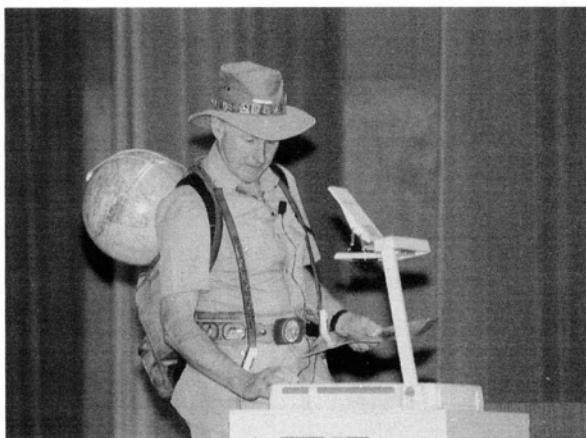
日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
6月21日 土					準備コア会議 淡水生物多様性にかかわる研究部会の活動 に関する討議					(夕食)			
6月22日 日	準備コア会議 淡水生物 多様性にかかわる研究部 会の活動に関する討議			(昼食)	準備コア会議 淡水生物多様性にかかわる研究部会の活動 に関する討議					(夕食)	研究集会 (ラフォーレ琵琶湖)		
6月23日 月	一般参 加受付 8:30~	開会式および記念講演			(昼食)	全体会議 1 「古代湖とその多様性」				歓迎会 (琵琶湖博物館)			
6月24日 火	分科会 A 1 琵琶湖の生物 分科会 B 1 琵琶湖の文化			(昼食) ポスター発表	全体会議 2 「東アジアの古代湖、琵琶湖」				(夕食)	分科会 C C1:種分化~ユーラシア C2:東アジア古生物 (ラフォーレ琵琶湖)			
6月25日 水	琵琶湖へのエクスカージョン 竹生島・沖島(漁村)などを訪問									(夕食)	分科会 C C3:種分化~アフリカ1 研究集会 1、2 (ラフォーレ琵琶湖)		
6月26日 木	分科会 A 2 アフリカの湖と人びと 分科会 B 2 世界の湖沼考古学			(昼食) ポスター発表	全体会議 3 「アフリカの古代湖における生物 多様性とその保全」				(夕食)	分科会 C C4:種分化~アフリカ2 C5:北方湖沼資源利用 (ラフォーレ琵琶湖)			
6月27日 金	分科会 A 3 湖の生物多様性と人間の影響 分科会 B 3 湖の古生物と古環境			(昼食) ポスター発表	全体会議 4 「生物と文化の多様性のかかわり」				(夕食)	研究集会 3、4 (ラフォーレ琵琶湖)			
6月28日 土	分科会 A 4 淡水生物多様性の管理と保全 分科会 B 4 住民参加と環境保全			(昼食) ポスター 発表	全体会議 5 「湖から地域への広がり」			総合討論お よび閉会式	歓送会 (琵琶湖博物館)				
6月29日 日	市民フォーラム(滋賀県立大学) 「古代湖は世界の遺産か?」												
日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00



開会のあいさつ（山脇副知事）



フランスのルベック博士による
記念講演



市民フォーラムで講演する
カナダのバレンティン博士



エクスカーション（沖島漁港）

世界古代湖会議共同宣言

1997年6月21日から28日まで、「世界古代湖会議（ICAL'97）」が開催された。この間、自然・社会・文化といった幅広い領域を代表する23カ国の専門家は、一般市民の参加を得て論議をすすめ、次のような認識に達した。

(1) 古代湖～独特かつ価値の高い遺産

1992年にリオ＝デ＝ジャネイロで開かれた「環境と開発に関する国連会議」、いわゆる「地球サミット」において調印された「生物多様性条約」にもあるとおり、生物多様性の保全、すなわち生命のにぎわいを保ち続けることは、自然生態系の統合性を保ち、将来の人間生存のために必要不可欠なことである。人々は、湖のまわりで、独自の文化を築き上げてきた。このような文化は、湖の生物的な自然とともに共進化¹してきたものであり、文化の多様性と生物の多様性とは分かちがたい絆で結ばれてきた。

古代湖はかけがえのない存在である。湖内では、生物が非常に長い時間を通じて、独自に進化を遂げてきた。古代湖はまた、数少ない存在である。それゆえ、バイカル湖、琵琶湖、マラウィ／ニアサ湖、タンガニーカ湖、ティティカカ湖、ヴィクトリア湖やさらにいくつかの湖沼を含め、古代湖を守り続けることは、きわめて重要である。これらの古代湖はそれぞれ歴史的に形成された「生命文化複合体」ともいえるものである。

(2) 近年の変化

工業化された諸地域では1世紀以上にわたって、それ以外の国々でもここ30－40年の間に、社会的・技術的な「近代化」が急速に進展し、古代湖は、湖とその周りの集水域も含めて、その価値を低下させてきている。これらの湖の自然資源の枯渇は、とりわけ沿岸において大きく、湖の生物多様性は深刻な状況におかれている。社会の急速な変化は、伝統的に育まれてきた独自の湖沼文化をもむしばんできている。資源を搾取しすぎたことによって、自然生態系の持続可能性が脅かされている。とりわけ発展途上の国々においては、切迫した貧困の問題が生物多様性の存続を危機的な状況に陥れている。

今回の会議では、以上のような問題点が明確に指摘され、古代湖やそれに関わる文化や生物の健全な状態を保ち続ける必要性が強く認識された。

(3) これから何をめざすのか

以上のような認識に基づき、私たちは以下のことを提案する。

- a) 古代湖における生物多様性を保全していくには、まだ未解明の領域が多い現状に鑑み、自然科学と人文社会科学とが一体となって、生物多様性の研究を深化させていかねばならない。とくに差し迫った社会的問題に 대응するために、更なる理解をめざすこの種の共同作業が求められる。
- b) 外来種の導入は、本来の湖環境の予期せぬ劣化をしばしばもたらしてきた。その環境に関わる全ての人々の間での緊密な協議が、意思決定に先立ってなされねばならない。意思決定されるまでの間は、古代湖およびその集水域への外来種導入の完全停止を提案する。

- c) 湖の保全に関する計画の策定にあたっては、つねに、地域住民の知識や経験を尊重し、かつそのような住民に湖の環境の管理者として、主体的な参加を求めるべきである。
- d) 「現代的」な、特定の限られた目的を目指すような手法は、考え直されるべきである。生物の多様性と文化の多様性との深い絆を重視することによって、自然資源を持続的に利用していくために、新たな統合的手法を提唱する。
- e) 人間が引き起こしている地球規模での危機的状況のもと、人類と自然界との相互関係を前面に押しだした、21世紀における私たちの新たな生活哲学を作り上げる必要がある。

(4) そして琵琶湖は

琵琶湖の生物と文化の多様性の現状について、私たちは多くのことを学ぶことができた。したがって私たちは、とくにこの琵琶湖への要望を行いたい。

- a) 琵琶湖は、生物と文化の両面からみて、世界的にも最も重要性の高い古代湖のひとつである。しかし、現代的な社会生活の要望によって、琵琶湖もまた、富栄養化や、生態系の悪化、伝統文化の喪失など、さまざまな問題をかかえている。
- b) 滋賀県にすむ多くの人々は、琵琶湖と深い結びつきをもっている。そのうえ、琵琶湖の周りには、琵琶湖博物館や、琵琶湖研究所、滋賀県立大学、水産試験場、京大大学生態学研究センター、滋賀大学、国連環境計画国際環境技術センターなど、主要な研究施設が立地している。
- c) これらの諸機関が協同して研究活動をすすめ、一般市民も保全への取り組みに協力的に参加することが、きわめて重要であると、私たちは信じる。このような取り組みがなされることにより、琵琶湖地域は、世界の古代湖を守りつづけるうえで、大きな影響力をもつ中心的な研究地域となることだろう。

そして、このような問題点がうまく解決されれば、琵琶湖での研究・調査や経験は、世界の他の古代湖における問題解決へ向けての成功モデルとして高く評価されよう。

以上が、世界古代湖会議を閉会するにあたっての、私たちの意見である。この会議が、世界の古代湖の研究や保全に関わる研究者や一般市民が、これから協同してネットワークづくりをすすめていくことの契機になることを、私たちは心から願う。

最後に、この会議の企画・運営に携わった方々の効率的かつ心くばりのきいた運営に感謝するとともに、会議を援助いただいたスポンサーの方々にもお礼を申し上げたい。

1997年 6月28日

世界古代湖会議出席者一同

提案者

ジョージ W. クールター
「世界古代湖会議」実行委員会副会長

オレグ A. ティモシュキン
1996年度生態学琵琶湖賞受賞者

・一周年記念シンポジウム 『琵琶湖と人との未来考』 平成9年10月19日(日)

シンポジウムの目的は、琵琶湖と人との関係を過去にさかのぼってかえりみ、そしてこれからの琵琶湖と人との新しい関係を市民とともに考えるきっかけづくりにあった。プログラムは、みなみらんぼう（シンガーソングライター）さんと当館館長・川那部浩哉との「ゲスト対談」を皮切りに、「寄り合いトーク」、「自由に寄り合い」および「寄り合い」の4部構成からなり、特に琵琶湖にかかわる3つの立場（『暮らす』・『遊ぶ』・『探る』）で、流域住民、研究者そして行政などさまざまな立場の方々にパネラーとなっていていただき、それぞれの立場から自由に問題提起・意見をお話しいただくとともに、また会場の参加者もふくめて論議を深め合った。本シンポジウムは、当館ホールにおいて行われ参加者は120名であった。なお、みなみらんぼうさんと館長の対談は、本館広報誌“うみんど第5号”に掲載した。当日のプログラムとパネラー等を以下に示した。

〔日程および内容〕

10時（受付開始9時30分）～16時30分

1. ゲスト対談

ゲスト みなみらんぼう 氏

ホスト 川那部 浩哉（琵琶湖博物館館長）

映像でたどる琵琶湖の変遷「琵琶湖今昔：暮らす、遊ぶ、探る」

2. 寄り合いトーク

(1) 「暮らす、遊ぶ、探る -琵琶湖-」

世話役 嘉田由紀子（琵琶湖博物館総括学芸員）

語り手 ブライアン・ウィリアムズ（画家）

小林 徹（滋賀工業会環境委員会委員長）

山岡 完右（滋賀県琵琶湖環境部理事）

西野麻知子（滋賀県琵琶湖研究所専門研究員）



(2) 自由に寄り合い（琵琶湖にかかわる3つの立場で寄り合い）

①分科会1 テーマ『琵琶湖と暮らす』

—産業活動や日常生活における琵琶湖とのかかわり—

②分科会2 テーマ『琵琶湖で遊ぶ』

—遊びやレジャー、文化活動を通じた琵琶湖とのかかわり—

③分科会3 テーマ『琵琶湖を探る』

—学習や研究活動を通じた琵琶湖とのかかわり—

(5) 主な印刷物

印刷物名	頁	発行数(部)
企画展示「古代湖の世界」展示解説書	87	4,000
開館1周年企画展示「私とあなたの琵琶湖アルバム」図録	243	2,000
水族企画展示「古代湖の世界－個性的な生き物たち－」解説書	8	50,000
水族企画展示「北海道の淡水魚」解説書	8	40,000
どこでも博物館をさがせ！（こどもガイド）	20	20,000
開館までのあゆみ	252	500
要覧（日本語 改訂版）	52	6,000
要覧（英語）	60	1,000
平成8年度 年報	78	1,200
資料目録1号「魚類標本1」	135	2,500

2 研究・調査活動

(1) 総合研究

- 博物館資料の整理・保管と利用に関する研究（代表 内田臣一）
- 水田生態系と人間活動に関する総合研究（代表 嘉田由紀子）
- 東アジアの中の琵琶湖，その成立と人間生態系に関する総合研究（代表 中島経夫）
- 琵琶湖沿岸帯の生態系と動態に関する総合研究（代表 芳賀裕樹）

(2) 共同研究

- 魚類における音響生理と利用に関する研究（代表 秋山廣光）
- 子ども博物館の展示と利用に関する研究（代表 芦谷美奈子）
- 琵琶湖水系産トンボ類の分布と生態（代表 内田臣一）
- 社会的要因が内湖の生物環境に与える影響（代表 小笠原俊明）
- 生活と科学の接点としての環境調査の手法開発に関する研究 -参加型から対話型へ-
（代表 嘉田由紀子）
- 屋外展示空間における特定生物群集の初期の変遷（代表 草加伸吾）
- 古琵琶湖層群の足跡化石調査とその研究法の開発（代表 高橋啓一）
- 学校教育における博物館利用の実践的研究（代表 高橋政宏）
- 地域博物館の情報システムの開発と利用に関する研究（代表 戸田 孝）
- 住民参加による気象情報の収集と分析に関する研究（代表 戸田 孝）
- 参加型博物館についての博物館学的研究（代表 布谷知夫）
- 琵琶湖集水域における中世村落の考古・文献資料の総合的評価にもとづく研究（代表 橋本道範）
- Global Changes in Biwako Ecosystem: Historical Perspective（代表 J.-J. Frenette）
- 日本産希少淡水魚の遺伝的多様性の研究（代表 長田芳和）
- 琵琶湖周辺域における過去一万年間の自然環境と人間活動の変遷（代表 宮本真二）
- 滋賀県内における地上性歩行虫（オサムシ・ゴミムシ）類の分布（代表 八尋克郎）

(3) 専門研究

- コイ科魚類の咽頭歯の研究（中島経夫）
- 琵琶湖における繊毛虫類と藻類の共生関係について（楠岡 泰）
- ミズシタダミ科貝類の生態学的研究（松田征也）
- 琵琶湖水流動の微細構造の研究手法の研究（戸田 孝）
- イバラモの雌雄異種性とシュート成長に関する研究（芦谷美奈子）
- 近江の民俗の多様性と生態系に関する研究（中藤容子）
- 琵琶湖における外来生物に関する研究（中井克樹）
- 琵琶湖歴史環境の世界史的評価（牧野久実）

琵琶湖水中の溶存有機窒素の挙動に関する研究 (芳賀裕樹)
Fish community structure and fish evolution (A. Rossiter)
琵琶湖周辺に生息する鳥類の生態学的研究 (亀田佳代子)
古琵琶湖層群の火山灰層の広域対比 (里口保文)
湖沼と人間のかかわりをめぐる比較文化論的研究 (嘉田由紀子)
植生と水質調節 - 降雨流出時の水質変化の組成解析 (草加伸吾)
古琵琶湖層群の脊椎動物化石 (高橋啓一)
日本産カワゲラ科昆虫の分類学的再検討 (内田臣一)
地域環境保全の社会学的研究 (脇田健一)
新生代における植物化石の研究 (木田千代美)
オサムシ上科甲虫の系統分類学的研究および生態学的研究 (八尋克郎)
Phytoplankton ecology and ecosystem processes (J.-J. Frenette)
日本産ナマズ3種類の産卵生態 (前畑政善)
近江の地域性に関する考古学的研究 (用田政晴)
江戸期の瀬田川浚渫に関する土木学的研究 (小笠原俊明)
固有種の成立機構と近縁種との関係 (桑原雅之)
最終間氷期以降における植生変遷と気候変動 (宮本真二)
琵琶湖に生息するモクズガニの生態学的研究 (桑村邦彦)
農村地帯のビオトープ研究 (水上二己夫)
博物館の評価に関する研究 (布谷知夫)
魚類の産卵行動 (秋山廣光)
琵琶湖関係古文書に関する歴史的評価 (橋本道範)
近畿地方の水田におけるカイエビ類の分類, 分布, および幼生の形態に関する研究 (M. J. Grygier)

(4) 公表された主な成果

研究成果は、琵琶湖博物館業績集第2号に詳しく収録する。ここでは代表的成果のみを掲載した。

• 湖沼研究系

中島経夫. 1997. 粟津遺跡のコイ科魚類遺体と古琵琶湖層群. 化石研究会会誌, 30 (1):13-15.

Kusuoka, Y. 1997. Comparison of zooplankton in the pelagic and littoral zones of Lake Tanganyika. In: Hori, M. (ed.) Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions X, 32-33.

Rossiter, A. and Yamagishi, S. 1997. Geographical differences in the social system of a lekking cichlid fish. In *Fish Communities in Lake Tanganyika*. Kawanabe, H., Hori, M. & Nagoshi, M. (eds.). Kyoto University Press. 193-218.

Toda, T. 1997. Satellite Thermal Remote Sensing in the BITEX'93 Area. *The Japanese Journal of Limnology*, 57 (4-2):553-558.

Nakai, K. 1997. Distribution and abundance of large-sized molluscs and empty shells of *Neothauma tanganyicense* on the sandy bottom of southern Lake Tanganyika. In: Hori, M. (ed.) Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions X, 30-31.

福原修一・紀平 肇・松田征也・田部雅昭・近藤高貴. 1997. オグラヌマガイの繁殖期. 貝類学雑誌. 56(4):299-304.

芦谷美奈子. 1997 (1月25日), イバラモにおける雄株と雌株の動態について, 種子植物談話会, 大阪市立自然史博物館.

伊藤栄明・石黒真木夫・上田澄江・牧野久実. 1998. ヌジ人名資料からの系図の復元について. シンポジウム人文科学における数量的分析, (3):5-10.

亀田佳代子. 1997 (9月21日). マレーシアにおけるクリイロバンケンモドキ *Rhinortha cholorophaeus* の繁殖記録:1997年度日本鳥学会大会, 新潟.

里口保文. 1997. 上総層群の火山灰層序及び上総・大阪・魚沼層群のテフロゾーンの比較. 地球科学, 51:104-116.

・集水域研究系

嘉田由紀子. 1997. 都市化に伴う環境認識の変遷 -映像による小さな物語-. 青木 保 他編 “岩波講座「文化人類学」” 岩波書店 東京, 2:pp. 1-33.

高橋啓一・岡村喜明. 1997. 古琵琶湖層群から産出したウマ類上腕骨. 地質学雑誌, 103(4):391-393.

草加伸吾・浜端悦治. 1998年 (3月), 森林土壌の水質形成過程 (II) -伐採前後の大雨流出時における水質比較 (伐採1年目). 第45回日本生態学会大会, 京都大学.

Frenette, J. -J., Vincent, W. F., Legendre, L., Kumagai, M, 1997 Biological responses to typhoon-induced mixing in two morphologically distinct basins of Lake Biwa International symposium on a new atrategy for water environmental research, ANSER'97, Wuxi, NanJing, China, July 20-25.

木田千代美. 1997. 古琵琶湖層群の植物相の変遷. 化石研究会誌, 30(1):7-12

Yahiro, K., and Yano, K.. 1997. Ground beetles caught by light trap during ten years. *Esakia*, (37):57-69.

・応用地域研究系

前畑政善. 1997. 水族館における希少淡水魚の保存と今後の課題. 日本の希少淡水魚の現状と系統保存 (長田芳和・細谷和海編). 緑書房. p.205-217.

用田政晴編集. 1997. “丸子船物語” サンライズ印刷出版, 滋賀.

桑原雅之. 1997 (6月24日). ピワマスにおける河川残留型の存在と琵琶湖流入河川に生息するとされるアマゴについて. 世界古代湖会議, 琵琶湖博物館

岩田修二・宮本真二. 1997. ジュンベシ谷の2万年. 季刊民族学. 79:44-53.

・博物館学研究系

布谷知夫編. 1997. 博物館ができるまで:琵琶湖博物館企画展示会「博物館ができるまで」展示解説

書. 琵琶湖博物館, 86pp.

Hendler, G., Grygier, M.J. Babysitting brittle stars. first report of intergeneric symbiosis among Ophiuroidea. Society for Integrative and Comparative Biology 1998 Annual Meeting, January 3-7, Boston, Massachusetts, U.S.A. [poster].

橋本道範. 1997. 荘園公領制再編成の一前提 - 辻太郎入道法名乗蓮とその一族 -. 大山喬平教授退官記念会編 “日本社会の史的構造古代・中世”, 思文閣出版, 京都. pp.389-416.

(5) 研究補助を受けた研究

嘉田由紀子 (代表). 住民参加による水環境調査結果のデータ・ベース化と博物館展示への展開に関する方法論的研究. 笹川財団.

嘉田由紀子 (代表). アフリカ・マラウィ湖周辺の人々の湖沼生活文化に根ざした生態系保全の方法開発に関する研究. トヨタ財団.

宮本真二 (代表). ヒマラヤ山脈東部における埋没腐植層の形成と環境改変. 東京地学協会.

用田政晴 (代表). 博物館における伝統的木造船の保存と展示手法の開発研究. 笹川財団.

牧野久実 (分担). 博物館における伝統的木造船の保存と展示手法の開発研究. 笹川財団.

中島経夫 (分担). 地球環境情報収集の方法の確立. 日本学術振興会未来開拓学術研究.

脇田健一 (分担). 地球環境情報収集の方法の確立. 日本学術振興会未来開拓学術研究.

A.Rossiter (分担). 魚類の生活様式・繁殖戦略の地理的・系統的多様性に関する研究. 文部省科研費国際学術研究.

牧野久実 (分担). 土壌に含まれる有機遺物の採集・分析法の開発. 文部省科研費基盤B

脇田健一 (分担). 制度としての文化財と博物館. 文部省科研費国際学術研究.

宮本真二 (分担). 長江文明の探求. 文部省科研費COE.

牧野久実 (分担). 系図データからの古代人口の推定. 文部省科研費重点研究.

牧野久実 (分担). イスラエル国ガリラヤ湖周辺地域の宗教文化についての総合研究. 文部省科研費国際学術研究.

(6) 研究部出版物

琵琶湖博物館業績目録1号 (1996年12月31日までの業績を収録) 1998年3月発行 150頁・1000部

(7) 琵琶湖博物館特別研究セミナー

琵琶湖博物館を来訪する研究者 (湖沼関係、博物館関係、それぞれの専門分野の関係) との交流を通して、博物館の研究活動の充実をはかるために、特別研究セミナーを不定期に開催している。平成8年から9年の開催結果は以下のとおり。

第1回 1996年11月8日 ワード (Dr. Ward) さん (ウイニベグ大学名誉教授) 「タウポ湖のマス」

第2回 1996年11月23日 タラール・ユネス (Dr. Talal Younes) さん (国際生物科学連合IUBS・事務局長) 「生物多様性の科学について」

- 第3回 1997年4月6日 オリバー・フリント (Dr. Oliver S. Flint) さん (米国スミソニアン国立自然史博物館) 「南アメリカの水生昆虫トビケラ類」
- 第4回 1997年4月15日 ハーヴェイ・カブワジ (Dr. Harvey Kabwazi) さん (マラウイ大学講師) 「マラウイ湖の湖沼保全の現代的課題」
- 第5回 1997年5月 S.E.ヨルゲンセン (Dr. S. E. Joergensen) さん (コペンハーゲン大学教授) 「生態系モニタリング」
- 第6回 1997年6月30日 染川香澄さん (子どもの博物館研究家) 「子ども博物館の展示と利用に関する研究」
- 第7回 1997年7月8日 アンソニー・リビnk (Dr. Anthony J. Ribbink) さん (マラウイ湖生物多様性保全プロジェクト・代表) 「マラウイ湖の歴史と資源利用」
- 第8回 1997年8月29日 瀬川三枝子さん (神奈川県自動相談所) 「全盲の人にとっての博物館と展示」
- 第9回 1997年11月18日 ダイアン・ウイローさん (ボストン子ども博物館・実験メディアスタジオ・ディレクター) 「おもしろく楽しい博物館展示のつくりかたーハンズオン展示のうしろにあるものー」
- 第10回 1998年3月30日 鷺谷いずみ (筑波大学教授) 「生物多様性と保全」

(8) 研究員の受入れ

- 張雲暁 (中国、北京日本学研究中心) 1997年4月1日～9月12日 「生活文化の視点から現代社会における水と人間の関係」
- 辻彰洋 (京大生態学研究センター) 1997年4月1日～1998年3月31日 「付着珪藻群集における階層構造の遷移過程に関する研究」
- 荒川忠彦 (滋賀県立米原高等学校) 1997年4月1日～1998年3月31日 「古琵琶湖層群中の花粉化石をもとにした古環境復元、およびそれをもとにした教材開発」
- 李易志 (中国、湖南省博物館資料部) 1997年9月1日～1997年3月31日 「日本の博物館の管理運営」
- H.H.N.Kabwazi (マラウイ大学) 1997年4月15日～4月18日 「湖沼における生物資源調査法」
- 何舜平 (中国科学院水生生物研究所) 1997年3月24日～1998年4月3日 「DNA分析によるコイ科魚類の系統解析」
- 単郷紅 (中国科学院水生生物研究所) 「日本産中新世コイ科魚類化石の研究」

(9) 海外調査

- 高橋 啓一 1997年6月 (中国新疆ウイグル自治区・北京市) 中国新疆ウイグル自治区古生物調査
- ジャン・ジャック・フレネット 1997年7月 (中国無錫市・南京市) 水圏環境研究に関わる新しい戦略についての国際会議
- 7月～8月 (ロシア連邦イルクーツク州・バイカル湖) 「陸域生態系の地

球環境変化に対する応答」学術調査

- 中井 克樹 1997年7月～8月（ロシア連邦イルクーツク州・バイカル湖）新プロジェクト「地球環境攪乱下における生物多様性の保全および生命情報の維持管理に関する総合研究」学術調査
- 川那部浩哉 1997年8月～9月（カナダ・ドイツ連邦）生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及に関する国際打ち合わせおよび国際生物多様性科学国際研究計画科学委員会・生物多様性条約科学技術工学支援委員会
 9月～10月（アメリカ合衆国・フランス）生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及に関する国際打ち合わせおよびアメリカ芸術科学アカデミー外国人名誉会員受諾式典
- 楠岡 泰 1997年9月～10月（フランス・パリ市）生物と文化の多様性に関する研究・展示・交流に関する国際打ち合わせ。
- 中島 経夫 1997年11月（中国北京市・山東省山旺）中新世コイ科魚類化石の発掘調査、中国科学院古脊椎動物与古人類研究所所蔵標本の調査
- 川那部浩哉 1997年11月（台湾）国際生物科学連合総会、国際生物多様性研究会議および東アジア水系の生物・文化多様性の研究・展示・普及に関する国際打ち合わせ
 12月（イギリス・ポルトガル・ドイツ連邦）生物多様性と生態複合の研究、淡水の生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及に関する国際打ち合わせ
 1998年1月～2月（マラウイ）国際協力事業団によるマラウイ湖生態学研究協力事業事前打ち合わせ
- 中島 経夫 1998年2月～3月（中国湖北省武漢市）中国科学院水生生物研究所所蔵標本の調査
- 川那部浩哉 1998年3月（アメリカ合衆国・パナマ・メキシコ）生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及に関する国際打ち合わせおよび生物多様性科学国際研究計画会議

3 交流・サービス活動

博物館の研究や資料収集などの成果をできるだけ多くの利用者に伝え、博物館をうまく有効に利用してもらうことで、博物館と利用者との双方向の情報交換と交流を行う場をつくり上げていくため自然観察会や博物館入門セミナー、あるいは学校教育との連携のための教育研修の受入などさまざまな活動を実施した。

(1) 観察会・見学会等

平成9年度は、博物館内およびその周辺で行うミュージアム観察会10件、県内各地で行うフィールド観察会8件、博物館の舞台裏を見学する博物館探検4件の合計22件の行事を計画した。うち5件は参加者が充分集まらなかったものや、雨天によりやむなく中止した。各事業のタイトルや参加者数は下表のとおりである。

実施日	種類	タイトル	実施場所	講師	参加人数
4月13日(日)	博物館探検	博物館の舞台裏	セミナー室	布谷	29
6月14日(土)	フィールド観察会	ホテルのお宿	大津市伊香立	嘉田・八尋	40
7月20日(日)	フィールド観察会	川のお魚探検	近江町宇賀野	水上・秋山・楠岡	48
7月21日(月祝)	ミュージアム観察会	マイクロな生き物観察会	琵琶湖博物館周辺	楠岡	20
7月26日(土)	フィールド観察会	川の生き物探検	安曇川町	秋山	中止
7月27日(日)	ミュージアム観察会	琵琶湖の魚は何を食べているか	琵琶湖博物館周辺	芳賀・楠岡	21
7月27日(日)	フィールド観察会	川の水と生き物を探る	マキノ町知内川	小笠原・内田	中止
8月2日(土)	フィールド観察会	かいどり大作戦 in 97	蒲生町市子河原	高橋(政)・水上・秋山・江島	中止
8月3日(日)	ミュージアム観察会	琵琶湖の周りの昆虫を調べよう	琵琶湖博物館周辺	八尋・内田・矢野	13
8月5日(火)	ミュージアム観察会	回転実験室 応用編	琵琶湖博物館内	戸田	6
8月9日(土)	ミュージアム観察会	植物標本のつくり方	琵琶湖博物館周辺	布谷	中止
8月30日(土)	ミュージアム観察会	琵琶湖の貝を調べてみよう	琵琶湖博物館周辺	松田・桑村	16
10月12日(日)	フィールド観察会	秋の打見岳 植物観察会	志賀町打見山山頂	布谷・楠岡	14
10月26日(日)	フィールド観察会	古琵琶湖層群の化石の採集会	三重県大山田村	中島・宮本・里口	33
10月26日(日)	フィールド観察会	里山訪問	大津市仰木	楠岡・布谷・中藤・外部講師	28
11月9日(日)	ミュージアム観察会	博物館の森のかんさつ(秋編)	琵琶湖博物館周辺	草加	14
12月7日(日)	ミュージアム観察会	ワリバシは何の木でできている	琵琶湖博物館内	布谷	中止
12月14日(日)	ミュージアム観察会	地層のみかた・調べ方―大地の歴史を調べよう	琵琶湖博物館内	宮本・里口	16
2月8日(日)	ミュージアム観察会	琵琶湖の水鳥観察会	琵琶湖博物館周辺	亀田・楠岡・芳賀	9
2月25日(木)	博物館探検	歴史展示の舞台裏	琵琶湖博物館内	用田・牧野・橋本・中藤	2
3月1日(日)	博物館探検	A展示室の舞台裏	琵琶湖博物館内	高橋(啓)	11
3月8日(日)	博物館探検	水族館探検隊	琵琶湖博物館内	桑村・前畑・秋山・桑原・松田	53
3月7、14日(土)	博物館講座	咽頭歯から地球の歴史を探る	琵琶湖博物館内	中島	8



◀ミュージアム観察会
「琵琶湖の魚は何を
食べているか」



フィールド観察会▶
「里山訪問」

(2) 質問コーナー・フロアトーク・ガーデントーク

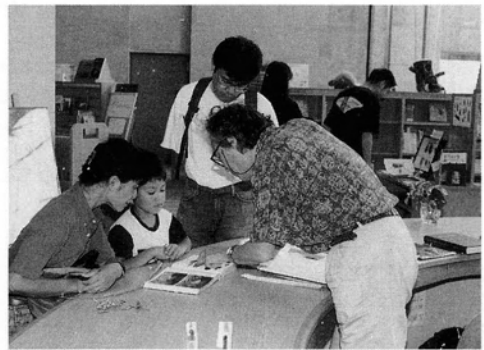
当館では、開館当初から“学芸員の顔が見える博物館”づくりを目指しているが、その一環として情報センターの一角に「質問コーナー」を設置している。

開館日には学芸員が日替わりでここに常駐して、一般の方々からの質問に回答した。なお、担当学芸員が回答可能な質問についてはその場で答え、わからない質問についてはそれぞれの専門の学芸員から回答した。質問内容についてのデータは、以下に示したとおりである。

1997年度の298日間で842件（2.83件／日）の質問があった。昨年に比べ、総合案内で答えられるような一般的質問は11%→5%と減り、専門的質問が増加した。中でも、生きものに関する質問が37%→50%と増加し、水族に関するものは28%を占めている。

なお、当日の担当学芸員は午後2時から約30分間、それぞれの担当の展示場所に立ち、展示の内容や展示品そのものについて解説する「フロアトーク」、「ガーデントーク」を実施した。ただし、土・日・祝日は展示室の混雑が予想されるので実施しないこととした。

今年度、図書室入口の壁に担当学芸員の2ヶ月先までの予定表を設置した。これはあらかじめ担当学芸員の専門分野と氏名を示すことにより、尋ねたい質問の専門分野担当者がある日に来てもらえるように配慮したものである。外部からの希望もあり、この予定表はホームページにも出して行く予定である。また今年度は館長自らも学芸員に混じって、月1回質問コーナー、フロアトークを担当していて、来館者に好評であった。



質問コーナー



フロアトーク

質問コーナーでの質問データ集計表

期 間	1997年4月1日 ～ 1998年3月31日 (298日間)				
総質問数	842件 (2.83件／日)				
質問内容	一般的な質問 (総合案内で回答できるようなもの)				42件
	専門的な質問				800件
対 応	担当学芸員が対応				697件
	専門 (または外部) 学芸員に依頼				145件
専門的な質問の内容の内訳					
生 物	動 物	水族 (魚)	226(205)件	プランクトン	16件
		水棲生物	39件	動物一般	73件
	植 物	陸上植物			30件
		水草			16件
地 学		39件	図 書		62件
物 理		7件	琵琶湖		71件
歴 民		34件	環 境		22件
博 物 館		68件	その他の質問		97件

(3) 教職員等研修会

平成9年度に行われた教職員等研修は、合計68件（参加者総数2,028人）であった。こうした研修会では、当館学芸員が展示概要や設置意図の説明のみならず、教育機関がどのように博物館を活用できるかについても解説を行った。また、展示内容に関わる実験実習も行った。

	月 日	団 体 名	参加人数
1	4月16日	全国私立高等学校定時制連絡協議会研修会	11
2	4月22日	草津市教職員研修会	15
3	5月 9日	安曇川町エコライフ推進協議会学習会	30
4	5月23日	大阪府高等学校生物部会研修会	30
5	6月17日	アメリカ合衆国ミシガン州交流事業研修会	29
6	6月19日	蒲生郡小中学校理科・科学部会研修会	18
7	6月20日	国際交流基金中学・高校教員招待事業研修会	28
8	7月 2日	滋賀県高等学校社会科研修会	20
9	7月 4日	ミシガン州高校生等の研修会	25
10	7月 5日	滋賀県高等学校教頭会研修会	60
11	7月11日	和歌山県金屋町教育委員会・小中学校長研修会	19
12	7月16日	中津川市教育委員会研修会	20
13		滋賀県高等学校工業部会研修会	40
14	7月17日	日野町立必佐公民館研修会	50
15	7月23日	滋賀県公立小中事務研究協議会	200
16	7月25日	滋賀大学教育学部教育研修会	32
17		高等学校博物館委員会	6
18		小中学校プログラム開発委員会	20
19	7月26日	淡海生涯カレッジ講座	30
20	7月29日	石川県金沢市中学校教育研究会理科部会研修会	25
21		奈良県高等学校生物部会研修会	20
22	8月 5日	滋賀県中学校教育研究会理科部会自然調査研修	40
23	8月 7日	彦根市教育研究会理科部会研修会	20
24		全国設備工業教育研究会	80
25	8月 8日	滋賀県小学校教育研究会社会科部会研修会	100
26		淡海生涯カレッジ講座	27
27	8月20日	安土町立老蘇小学校教員研修会	18
28		岐阜県高等学校理化教育研究会研修会	23
29		大津市立南郷小学校教員研修会	30
30	8月22日	守山市理科部会夏季研修会	22
31		滋賀県小学校教育研究会家庭科部会研修会	20
32	8月25日	小学校プログラム開発委員会	10
33	8月26日	豊岡市自然科学資料研究委員会研修会	9
34		中学校プログラム開発委員会	10
35	8月28日	立命館大学教員研修会	65
36	9月 2日	岐阜県本巣郡穂積町校・園長研修会	7
37	9月 3日	亀岡市教育委員会研修会	35
38	9月 4日	宝塚市小中学校教頭研修会	37
39		京都府綴喜地方小・中学校教頭研修会	15

40	10月4日	淡海生涯カレッジ実験・実習講座	36
41	10月17日	高等学校博物館委員会	6
42	10月21日	大阪府高等学校定時制通信制教育研究会	10
43	10月22日	滋賀県高等学校教育研究会家庭科部会研修会	10
44	10月24日	甲賀郡小中学校理科部会実技講習会	25
45	10月28日	小中学校プログラム開発委員会	20
46	10月29日	京都市文教中学校研修会	166
47	11月12日	近畿地区高等学校通信制教員研修会	20
48	11月19日	滋賀県小学校教育研究会理科部会研修会	30
49	12月1日	中学校プログラム開発委員会	10
50	12月4日	滋賀県小学校教育研究会家庭科部会研修会	25
51	12月5日	小学校プログラム開発委員会	10
52	12月5日	美濃加茂市小中教員研修会	20
53	12月11日	奈良県大宇陀町小中学校教頭研修会	5
54		滋賀県湖西地区高等学校初任者地域研修会	38
55	12月23日	三重県阿山郡島ヶ原小学校教員研修会	12
56	1月27日	財団法人レイカディア振興財団	15
57		高等学校博物館委員会	6
58	1月29日	兵庫県教育委員会・文化財課研修会	2
59	2月3日	生駒市小学校教育振興会社会科研修会	10
60	2月4日	福島県教育庁文化課研修会	3
61	2月6日	三県給与事務担当者会議研修会	8
62	2月13日	奈良県高等学校長研修会	60
63		滋賀県高等学校理科実験実習研修会	20
64	2月17日	滋賀県高等学校教育研究会図書館部会研修会	45
65	3月5日	鯖江市教育委員会視察研修	15
66	3月6日	滋賀県高等学校教育研究会生物部会研修会	25
67	3月10日	福井県教育庁学校教育課企画主査研修会	2
68	3月22日	滋賀県教育委員会生涯学習課研修	78
68 件			2,028

(4) 博物館実習

期 間：平成9年8月4日(月)～8月11日(月)

国内10大学28名を対象に、博物館の展示や情報、資料の整理・保管、ならびにインストラクター体験等の講義・実習を行った。なお、最終日にはディスカバリーボックスの制作とその成果発表会を開催するとともに、受講者に修了証を発行した。

(5) 博物館体験学習

博物館と学校とが連携を保ちながら活動を進めていくことができるよう、学校のカリキュラムにそった社会見学への対応のほか、フローティングスクールや校外学習の受け入れを行った。特に、体験学習として下記のような活動を、実習室・セミナー室・生活実験工房等を利用して行った。

校 種	主 な 活 動 内 容
小 学 校	・ヨシ笛、化石のレプリカ、水質検査、ワークシート、昔のくらし体験、藁細工 魚のレプリカ、魚の解剖
中 学 校	・水質検査、プランクトン観察、化石のレプリカ、魚の解剖、ワークシート
高等学校	・土壌の吸着実験、水質検査、プランクトン観察、魚・貝の解剖、ワークシート

校 種	活動学校数	活動人数
小 学 校	83校	5,383人
中 学 校	11校	1,957人
高 等 学 校	6校	508人
合 計	100校	7,848人



昔のくらし体験



フローティングスクール

(6) 体験学習プログラムの開発

効果的な展示見学を行うためのワークシートの作成、理科・社会科等の教科学習を支援するプログラムを開発した。

(7) 「体験学習の日」の活動

学校週5日制に対応する事業として、毎月第2・4週の土曜日に当館を訪れる小・中学生を対象に自然・環境・歴史・民俗への興味や関心を高めるための活動を行った。

午前10:30~11:30・午後2:00~3:00の2回。974名の参加者があった。

月 日	体 験 学 習 の 内 容	講 師	参加人数
4月12日 4月26日	春を感じてみよう	大谷・水谷	30 50
5月10日 5月24日	琵琶湖のプランクトンを見よう	浅井	38 18
7月12日 7月26日	紙で遊ぼう	平田	90 65
9月13日	化石のレプリカ	高橋・江島	60
9月27日	草木染めで楽しもう	布谷	40
10月11日 10月25日	鉱物に親しもう	磯部・北岸	33 60
11月 8日 11月22日	木の実で遊ぼう	江島・高橋	58 72
12月13日	鏡餅をつくろう	勝島・水上	88
1月10日 1月24日	水鳥に親しもう	亀田	38 38
2月14日 2月28日	薬細工で親しもう	勝島・水上	60 36
3月14日 3月28日	ヨシ笛をつくろう	高橋・江島	48 52
参 加 人 数 合 計			974



水鳥に親しもう



ヨシ笛をつくろう

(8) 博物館入門セミナー、博物館講座、専門講座

入門セミナーは、琵琶湖博物館の展示や活動の内容について、実際の展示をつくってきた学芸員が解説をし、参加者に、博物館により親しんでもらうためのものであり、水曜コースと土曜コースが選択できる。また、将来博物館の活動に何らかの形で関わっていききたいという方にも、“博物館で何ができるか、何をしたいか”を考えてもらう機会を提供するという狙いもある。平成9年度には、前年に引き続いて第4期、第5期入門セミナーを開催した。第5期の水曜コースは、応募者が少なく中止した。

琵琶湖博物館講座は、学芸員が専門テーマについてわかりやすく解説するものである。専門講座はある特定の分野について専門的知識や技術を身につけたい方のための講座であり、教員やアマチュアの研究家を対象としたものである。その詳細は下記に示した。

第4期 琵琶湖博物館入門セミナー 「湖をめぐる自然と人間」

回	水曜コース 登録者19名	土曜コース 登録者21名	内 容	講 師
1	4月23日	4月26日	開講式	布谷
2	5月7日	5月10日	琵琶湖の生い立ちを探る	里口
3	5月21日	5月24日	琵琶湖の湖底遺跡	用田
4	6月4日	6月7日	琵琶湖の環境と魚たち	秋山・桑村
5	6月18日	6月14日	烏丸半島の昆虫	八尋・内田
6	7月2日	7月5日	水際の生態学	芳賀・亀田
7	7月23日	7月26日	湖のくらしと自然	嘉田
8	7月30日	8月2日	修了式・意見交換会	宮本・亀田・里口・布谷

第5期 琵琶湖博物館入門セミナー 「湖をめぐる自然と人間」

回	水曜コース 中 止	土曜コース 登録者8名	内 容	講 師
1	10月29日	11月1日	開講式・暮らしと博物館	脇田
2	11月19日	1月22日	大地の歴史	里口
3	12月3日	12月6日	湖と人の歴史	橋本・中藤
4	12月17日	12月20日	河と人間	小笠原
5	1月7日	1月10日	湖水の流れ	戸田
6	1月21日	1月24日	河と虫	内田
7	2月4日	2月7日	湖の魚	桑原
8	2月18日	2月21日	修了式・意見交換会	数名

博物館講座 「台所の植物学」

登録者 11名

回	実施日	内 容	担 当 者
1	5月8日(木)	栽培植物の利用	布谷
2	5月15日(木)	果物 果実と種子	布谷
3	5月22日(木)	台所の野菜	布谷
4	5月29日(木)	器とお箸	布谷
5	7月3日(木)	台所の植物の起源をたどる	嘉田

博物館講座 「淡水魚入門講座(講義編)」

登録者 32名

回	実施日	内 容	担 当 者
1	5月17日(土)	淡水魚とはなにか	前畑
2	5月31日(土)	琵琶湖の環境と魚	桑原
3	6月14日(土)	琵琶湖の魚と漁業	桑村
4	6月12日(土)	日本産淡水魚の現状と保全	松田

博物館講座 「淡水魚入門講座(実技編)」

登録者 26名

回	実施日	内 容	担 当 者
1	9月6日(土)	魚類の調査法	桑原、前畑
2	9月13日(土)	魚類採集調査	前畑、桑原
3	9月20日(土)	魚写真の撮り方	秋山

博物館講座 「骨の化石の研究法」

登録者 18名

回	実施日	内 容	担 当 者
1	10月4日(土)	人の体のなりたち	高橋(啓)
2	10月11日(土)	比較骨格学	高橋(啓)
3	10月25日(土)	日本の脊椎動物化石	高橋(啓)

博物館講座 「琵琶湖の民俗・民族・みんぞく」

登録者 18名

回	実施日	内 容	担 当 者
1	1月31日(土)	琵琶湖水系の漁具 -展示室と収蔵庫を巡って-	中藤
2	2月14日(土)	琴湖と琵琶湖をくらべてみると	牧野
3	2月28日(土)	最近の文化財ニュースから -黒塚古墳の鏡と近江の前方後円墳	用田

博物館講座 「咽頭歯から地球の歴史を探る」

登録者 8名

回	実施日	内 容	担 当 者
1	2月7日(土)	咽頭歯とは	中島
2	2月14日(土)	咽頭歯から大地のなりたちをさぐる	中島

回	実施日	内 容	担 当 者
1	3月26日(木)	水生昆虫の採集(実技)	内田
2	3月27日(金)	水生昆虫の同定(実技)	内田
3	3月28日(土)	水生昆虫の同定(実技)	内田

(9) 田んぼ体験教室

屋外展示のひとつである田んぼを使った体験教室を開催した。この教室は単なる稲作体験にとどまらず、田んぼの周りに広がる自然や人の暮らしまで学ぶもので、一年間で12回開催した。

たんぼ体験教室開催日および内容

登録者 44名

回	開催日	内 容
1	5月3日(土)	全体説明・代かき
2	5月11日(日)	田植え
3	6月15日(日)	田の草取り
4	7月6日(日)	田の草取りⅡ
5	8月17日(日)	周辺観察(花・虫)
6	9月14日(日)	かかしづくり
7	10月5日(日)	稲刈り
8	11月2日(日)	脱穀
9	12月14日(日)	餅つき
10	1月18日(日)	お米の話
11	2月22日(日)	わら細工
12	3月15日(日)	まとめ



「こうやって、ごはんになるんだね。」

脱穀作業

(10) フィールドレポーター

フィールドレポーターとは県内各地の身近な生き物や生活に関する情報を定期的に報告してもらい、そこで得た情報を博物館の資料として保存、または展示の中で活かしていくという制度である。つまり県内各地の人々と博物館の展示・交流活動をつなぐ、いわば「地域情報通信員 (=フィールドレポーター)」である。この制度は平成9年度からスタートし、初年度は105名の登録があった。

活動として、博物館からテーマを提示して報告する年4回のアンケート調査と、自由な内容で身近な情報を随時報告する自由回答調査の2種類を実施した。レポーターからの情報は、年4回の「フィールドレポーター便り」の発行と、年度末のフィールドレポーター交流会において、とりまとめ結果の報告を行った。また博物館展示室にも掲示板を設置し、「フィールドからのレポート」として情報を公開した。

調査実績

調査テーマ	実施月	報告件数
ツバメの巣を調べよう	5～8	276件
水辺の貝を調べよう	7～8	139件
あなたが使った水の量	8～2	108件
セイタカアワダチソウを調べよう	10～11	236件
自由形調査	周年	52件



調査表、レポート例



ツバメの巣

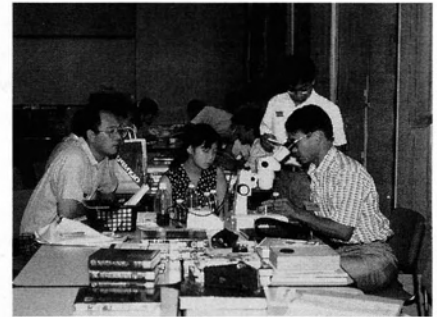


フィールドレポーターの活動

(1) 夏休み相談室

子どもたちの自然や地域に対する自主的な探究心を養うため、研究テーマ選びから集めた標本の同定まで、自由な研究の支援を行う夏休み相談室を開催した。相談には学芸員をはじめ県内で活動している各分野の専門家が対応した。

分 野		8月23日	8月24日	件 数
昆 虫	陸生昆虫	5		5
	水生昆虫	3	3	6
魚 類		3	2	5
その他の小動物			1	1
植 物	陸上動物	4	3	7
	水生植物		2	2
地学関係	化 石	2		2
	岩 石	1	2	3
	そ の 他		1	1
そ の 他			2	2
合 計		18	16	34



相談件数 34件
相談窓口に来た人数 約80人

(2) 交流センター関連印刷物の発行

本年度は、交流関連印刷物として教師用ガイドブック「琵琶湖博物館利用の手引き」、博物館だより「うみんど」(大人用)、「うみっこ」(子ども用)を発行した。

印 刷 物 名	号数	頁	発行部数
琵琶湖博物館利用の手引き		193	7,500
うみんど	3号	8	100,000
	4号	8	100,000
	5号	8	70,000
	6号	8	70,000
うみっこ	2号	4	100,000
	3号	4	80,000



(13) 滋賀県立琵琶湖博物館における（仮称）博物館ボランティア制度について

「地域博物館」は近年の生涯学習・教育の高まりや知的好奇心の高揚によって、地域活動のひとつの活動拠点として注目されている。その中で、琵琶湖博物館は「湖と人間」を対象とした「テーマ博物館」であり、「知的・情報集約型博物館」、「アミューズメント博物館」、そして「参加型博物館」を基本理念に掲げている。

基本理念の一つである「参加型博物館」としての琵琶湖博物館を運営するうえで、自発的・主体的に参加する個人を対象とした博物館活動に積極的に参加・協力する組織・制度が必要であり、（仮称）琵琶湖博物館ボランティア制度検討委員会を発足させ検討を重ねた。

4 情報活動

最新のハードウェアとソフトウェアを活用し、“博情報館”として機能できる基本情報システムの構築を目指している。そのため来館者向け閲覧用図書の新規購入や映像情報のデジタル化ならびに研究支援を図りながら、地図情報や文字情報と合わせて検索や利用を可能にするとともに、通信網を通じて博物館利用者や類似施設とのネットワーク化を図ることに努めた。

(1) 館内の情報センター（図書情報利用室）

館内の図書室と情報利用室を来館者が自由に利用できるように整備している。来館者の立場からすれば、文献資料・電子資料とも疑問解決のための「調べごと」の手段という意味では同じであるという考えに基づき、両室を隣接させて互いに往来できるように設置し、かつ利用案内カウンターを共通にすることによって、一体化して運営している。

・図書室

単行本、約5,500冊および雑誌、約50タイトルを開架式で提供し、要望に応じて閉架式資料も提供した。

・情報利用室

情報端末を利用者自身が操作することにより、常設展示室のマルチメディア資料のほか情報利用室専用の長時間番組や博物館資料の検索プログラムの利用を図った。

なお、今年度のシステム改良事業として、旧システムでは展示室案内と資料利用とが全く独立しているのを、展示室案内画面からマルチメディア資料を直接呼出せるように変更した。内部での試験を経て、平成10年夏ごろには一般来館者に公開できる予定である。

(2) 通信網を利用した館外サービス

・ファックス情報提供サービス

各家庭のファックスから電話回線で接続して操作することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの情報を受信することができる。今年度の利用頻度は記録が無く不明であるが、来年度以降は記録できるように今年度のシステム改良事業でシステム変更を行った。

・インターネット・ホームページ

インターネットを経由して博物館に接続することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの情報を受信したり、博物館資料の検索を行ったりすることができる。また、インターネット・メールで専門的な内容についての質問を受け付けており、このメールの宛先もホームページで案内している。

平成8年12月末の運用開始以来の利用状況は以下の通りである。

[ウェルカムページ（表紙ページ）へのアクセス件数]

平成8年	平成9年												平成10年		
12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
31	229	222	167	346	354	366	397	462	442	415	349	369	398	428	416

※同一利用者の連続アクセスと思われるもの、博物館内部からの利用は除外した。

※利用者が表紙以外の下位ページのアドレスを記録して直接アクセスしている場合、および「エリア・キャッシュ」を利用して利用者側の組織内で情報を再利用している場合は計数されない。

[ホームページで案内している宛先へのメール受付状況]

全部で62通のメール（以前のメールに対する回答などを除く）があり、うち20通は特に回答を要しない感想等であった。残り42通については情報センター担当者自ら、またはメール内容に応じた学芸職員に依頼して回答した。

メールの内容は以下のようなものであった。

ホームページ内容についての意見・感想	3通
リンク許可依頼	17通
展示内容についての意見・感想	7通
来館・料金についての問い合わせ	3通
博物館の発行物についての問い合わせ	3通
博物館に関する新聞記事への感想	1通
行事についての問い合わせ・礼状	3通
専門的内容についての問い合わせ	13通
フィールドレポート報告・それに類するもの	3通
取材・視察・掲載許可依頼	2通
県下の他の博物館に関する問い合わせ	1通
博物館への就職に関する問い合わせ	4通
特定の博物館スタッフへのあいさつ	2通

(3) 資料整備

以上のような活動の前提となる資料収集のうち、情報活動との関連が特に密接な図書文献資料および映像資料について、以下のとおり整備した。

・図書等

(ア) 図書

区分	平成8年度	平成9年度	合計
購入図書	12,909冊	1,418冊	14,327冊
寄贈図書	—	1,804冊	1,804冊
データ入力済図書	15,907冊	2,268冊	18,175冊
データ入力済文献	17,382件	2,070件	19,452件

(イ) 所蔵雑誌 (タイトル数)

雑 誌	タイトル数	合 計
和 雑 誌	580冊	900冊
洋 雑 誌	288冊	
中 国 雑 誌	32冊	

・映像資料

1) 映像資料

区 分	平成7年度	平成8年度	平成9年度	合 計
動 画 資 料	350点	48点	21点	419点
静 止 画 資 料	56,654点	3,000点	2,500点	62,154点
合 計	57,004点	3,048点	2,521点	62,573点
C D 入 力 点 数	49,558点	7,904点	3,407点	60,871点

2) 製作動画資料

- 「今月のびわ湖」(12本) 平成9年度の湖国のニュースを月別に編集。
- 「世界の湖沼 ティティカカ湖」 水草に囲まれ、その環境を利用するウロス島の人々の暮らしを紹介
- 「洞庭湖」 洞庭湖の伝統漁法を紹介
- 「琵琶湖 水辺の植物」 琵琶湖とその集水域の水草を網羅的に紹介
- 「生き物元気! ～ほったらかしの米作り～」
里山の水田環境に関するシリーズの一環。不耕起栽培による米作りを実践する農民の姿と、その水田にあふれる生き物の姿を紹介。

3) 購入動画資料

- 琵琶湖周遊 (1992) 1979年から89年までの湖の記録。空撮による湖岸の変化を、新旧比較を行いながら紹介。
- 琵琶湖からのメッセージ (1995) アオコの発生や、1994年の大渇水の実況など、琵琶湖に近年生じている問題のドキュメント。
- 琵琶湖空からのレポート (1984) 琵琶湖の開発の様子を、空中からの映像でとらえる。開発前の烏丸半島の映像あり。
- 琵琶湖で何かが 琵琶湖に生じた諸問題について、人々の感想や考えを伝えるインタビュー番組。工事中の烏丸半島、柳ヶ崎上水道の異臭騒ぎなどの映像あり。
- がけっぶちの琵琶湖 (1992) 琵琶湖に生じた諸問題について、30人の人々にインタビューを行う。

・映像資料の貸し出し

静止画資料の整備に伴い館外からの利用要求に応え、静止画の貸し出し業務を開始した。平成9年1月1日～平成10年3月31日までの利用状況は、66件で内訳は以下の通りである。

年月日	貸し出し先	資料数	年月日	貸し出し先	資料数
H9.1.9	(財)ダム水源地環境整備センター	魚類写真5点	9.10	(財)琵琶湖・淀川水質保全機構	魚類・水生生物写真14点
9	県土木管理課	魚類・水生生物写真13点	13	亀岡市文化資料館	魚類写真30点
2.1	彦根市役所生活環境課	魚類写真6点	22	城陽市歴史民俗資料館	魚類写真12点
1	彦根市役所生活環境課	魚類写真6点	10.2	日本水産資源保護満会	魚類写真1点
19	新潟市水族館マリニピア日本海	魚類写真5点	2	株式会社チャイルドコスモ	魚類写真6点
19	株式会社ぎょうせい	魚類写真2点	4	甲南町役場	魚類・水生生物写真6点
19	滋賀県漁業協同組合連合会	魚類写真1点	8	城陽市歴史民俗資料館	魚類写真12点
19	京都府亀岡市農林課	魚類写真6点	8	株式会社るるぶ社	魚類・水生生物写真13点
20	水資源開発公団丹生ダム建設所	魚類写真7点	9	県広報課	記録写真1点
4.3	株式会社菱晃アクリテック事業部	魚類写真7点	11.3	株式会社第一学習社	魚類・水生生物写真3点
11	滋賀県漁業協同組合連合会	魚類写真8点	5	近畿地方建設局企画課	魚類写真7点
30	安土町役場地域振興課	魚類写真15点	12.2	EDメディアファクトリー	魚類写真・漁業写真5点
5.14	神戸海洋博物館	魚類写真2点	6	琵琶湖・淀川水質保全機構	魚類写真14点
14	県近代美術館	漁業写真5点	8	中日新聞大津支社	魚類写真7点
28	(財)能登川青年会議所	寄託写真パネル30点	25	琵琶湖水質保全行動計画推進協議会	魚類・記録写真6点
6.3	朝日新聞大津支局	魚類写真1点	H10.1.9	(財)滋賀県レイカディア振興財団	丸子船写真1点
5	(株)スタープロジェクト	漁業写真1点	9	県琵琶湖環境部水政課	寄託写真/洪水・河川氾濫写真10点
10	有限会社バーンズ	魚類写真1点	10	滋賀県漁業協同組合連合会	魚類・水生生物写真10点の転載
24	城陽市歴史民俗資料館	魚類写真20点	22	大津市歴史博物館	寄託写真1点
27	東京メトロポリタンテレビジョン	魚類写真2点	29	滋賀県観光連盟	博物館外観9点
10	有限会社バーンズ	魚類写真1点	2.9	滋賀県琵琶湖環境部水政課	寄託写真2点
30	県広報課	魚類写真1点	9	野洲川下流土地改良区	寄託写真2点
7.7	千歳サケのふるさと館	魚類写真22点	9	(株)山と溪谷社	寄託写真76点
3	(株)アクセス	魚類写真5点	14	滋賀銀行	丸子船など4点
3	京都府亀岡市農林課	魚類写真1点	14	滋賀県琵琶湖環境部水政課	寄託写真2点
4	(株)滋賀民報社	魚類写真1点	24	草津県事務所土地改良課	寄託写真11点
4	近畿地方建設局琵琶湖総合開発協議会	魚類写真・洪水写真6点	26	水資源協会	魚類・水生生物写真7点
10	県広報課	寄託写真3点	3.4	滋賀銀行	魚類2点
10	滋賀県青年団体連合会	寄託写真パネル33点	24	テレビピア	丸子船など2点
25	J A 滋賀五運	魚類写真1点	28	城陽市役所	魚類写真1点転載
29	国際ロータリー第2650地区	魚類写真2点			(日付は、使用承認書発行日)
29	水資源開発公団琵琶湖開発総合管理所	魚類写真23点			
8.8	長浜県事務所土地改良課	魚類・貝類・水草類写真10点			
10	(株)滋賀民法社	魚類写真1点			
28	(株)海の中道海洋生態科学館	魚類写真6点			
28	(株)平凡社	水生生物写真3点			

(4) 情報システムの構築

準備室時代の平成4年度から年次進行でシステム整備を進め、平成8年度の第5期計画で一応の完成を見た。平成9年度はこのシステムに対して、以下のような追加整備を行った。

《リース切れ機器の更新》

平成4年度の第1期整備事業で導入した備品（5年リース）および平成5年度の第2期整備事業で導入した備品（4年リース）がリース期限を満了したことに伴い、以下の機器を新規に導入した。

画像情報サーバ（内部用）SONY NWS-7000B	1台
銀塩カラープリンタ FUJIX Pictography3000	1台
インテリジェントハブ CONTEC RT-1216S	1台
画像情報検索端末 PC-98NX MA26D/S7	1台
画像情報入力端末 PowerMacintosh9600/350	1台
画像情報入力端末 PowerMacintosh7600/200	1台
画像情報入力端末 MacintoshPowerBook3400c	4台

《情報利用サーバシステムの一部機器更新》

平成8年度の第5期整備計画（第5工区）で委託製作した情報利用サーバシステムで扱っている動画を保持するデジタル媒体について、その規格標準化がメーカーの当初予測よりも遥かに速く進むという状況になった。そのため、下記の構成機器更新を行った。

デジタルLDオートチェンジャ PIONEER DLC-V250	1台
→DVDオートチェンジャ PIONEER DRM-1004	1台

《ソフトウェアの追加開発》

情報システムで運用しているソフトウェアについて、実際に開館して運用を進めて行く中で明らかになってきた不十分な面に対応するため、下記の内容でソフトウェアシステムの追加開発を行った。

- ・ホームページの更新（広報誌の掲載・学芸員紹介の内容更新・英語版ホームページの作成）
- ・展示紹介の内容充実
- ・画像検索システムの改良
- ・情報利用動画システムの改良
- ・蔵書点検システムの作成
- ・FAX情報提供システムの改良
- ・名簿システムの7桁郵便番号への対応

5 資料整備活動

(1) 方針

琵琶湖博物館では、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶ自然、人文、社会科学等にかかる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料の収集、整理保管、および利用をはかり、博物館活動の充実につとめている。

収集は、博物館職員による収集、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって行い、これらを必要な時にただちに利用できるよう、各資料区分ごとの体系に従って整理し、長期間にわたり安全に良好な状態を保てるよう保管している。

またその資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

ここでは映像資料、図書資料を除いた資料について掲げておく。

(2) 収蔵資料点数

・地学標本	約12,000点
岩 石	約1,600点
化 石	9,121点
ボーリング資料	1,250点
・植物標本	約71,000点
陸生植物	約69,000点
水生植物	約2,000点
・動物標本	約32,900点
貝	約11,100点
昆 虫	約21,600点
脊椎動物	180点
鳥	68点
・液浸標本	約54,300本
微生物	約200本
貝	約4,100本
昆虫等	約19,000本
魚	約31,000本
・考古資料	約2,000点
・歴史資料	約440点
・民俗資料	約7,400点
滋賀県内有形民俗文化財資料	6,514点

小牧家提供民具	約700点
提供漁具等	214点
・環境資料	約12,000点
環境教育の成果品等	約2,000点
環境に関するアンケート等	約10,000点
・水族資料	約200種 約30,000尾
(主な繁殖魚類は以下のとおり)	合計 約222,000点

◆◆◆ 平成9年度主な繁殖魚類 ◆◆◆

日本産	学名	(尾)
コイ科		
ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	116
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pumira subsp.</i>	250
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	101
ミヤコタナゴ	<i>Tnania tanago</i>	169
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	58
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	70
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus sinensis suigensis</i>	96
スゴモロコ	<i>Squalidus chankaensis biwae</i>	200
ギギ科		
ネコギギ	<i>Pseudobagrus ichikawai</i>	34
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus leiurus</i>	367
ムサシトミヨ	<i>Pungitius pungitius subsp.</i>	19
外国産		
コイ科		
オオタナゴ	<i>Acheilognathus macropterus</i>	50
トンキトゲタナゴ	<i>Acheilognathus tonkinensis</i>	30
コウライハス	<i>Opsariichthys uncirostris bidens</i>	50



ネコギギ幼魚



コウライハス幼魚

(3) 新規資料収集

・収集、提供

村瀬忠義植物標本	約3,000点
滋賀県産甲虫標本	約5,000点
日本産チョウ・ガ類昆虫標本	約500点
近畿産水生昆虫液浸標本	約500本
鳥類標本	60点
民具資料	7件 14点

・受贈

道田氏貝類標本	5,802点
日本産トンボ、甲虫標本	約1,000点
鉱物標本	43点
鳥類標本	53点

・購入

日本産クワガタムシ標本	100点
世界の非海産貝類標本	約250点
絹本着色琵琶湖真景図ほか歴史資料	23件 38点

・製作

琵琶湖木造船模型	5点
トンボ（メガネサナエ）幼虫および成虫模型	2点
ムベ実付枝	1点
魚類剥製標本	26点
琵琶湖水系生息魚類細密画	39点
水生植物レプリカ	1点

(4) 資料整理

資料の整理は、データの添付、標本製作、保存処理、修復、補修、同定・鑑定、収納、登録、燻蒸、損害保険等の手続きを含む。これらの詳細は、各資料の区分ごとに方針・要領によって定められ実施した。

整理資料

・地学標本

地学標本	約12,000点	分類収納、化石クリーニング
------	----------	---------------

・植物標本

桑島氏植物標本	約10,000点	マウント、ラベル添付、燻蒸
村瀬氏植物標本	約15,000点	マウント、ラベル添付、燻蒸

・動物標本

滋賀県産甲虫標本 約5,000点 展足、ラベル添付、燻蒸、収納
日本産チョウ・ガ類昆虫標本 約500点 展翅、ラベル添付、燻蒸、収納
滋賀県産トンボ標本 2,000点 展翅、ラベル添付、燻蒸、収納
脊椎動物標本 約180本 燻蒸、収納

・液浸標本

近畿産水生昆虫液浸標本 約500本 小分け、ラベル添付、粗同定、収納
甲虫類標本 358本 保存液交換、同標本258本同定
水生昆虫液浸標本 約18,000本 アルコール液点検・補充、収納
同標本 約7,000点 ラベル追加添付
魚類標本 12,918件 標本登録 約10,000本 保存液交換

・考古資料

松原内湖遺跡出土資料 仮分類、仮配架
唐橋遺跡出土資料 仮分類、仮配架
中畑遺跡出土資料 仮分類、仮配架
その他資料 搬入 合計 約500点

・民俗資料

民具資料 約7,400点 一部補修・保存、一部部材照合、一部登録番号照会

(5) 燻 蒸

資料に付着する成虫・卵・蛹および黴等、資料保存のために有害な生物の殺虫防除を目的に、収蔵庫燻蒸および燻蒸庫燻蒸を行った。

収蔵庫のガス燻蒸は平成9年9月8日から10日まで、植物、動物、民俗の各収蔵庫について実施した。

燻蒸庫における新規搬入資料のガス燻蒸は、4回実施した。

(6) 保存環境調査

博物館として資料に良好な保存環境を作り上げてこれを維持するため、平成4年度から文化庁および東京国立文化財研究所の指導と助言を受けて、各種の検討と調査、測定を行っている。

特に文化財に影響を及ぼすと考えられる温湿度、酸やアルカリによる空気汚染、照明、生物被害について行ってきた。

測定指示薬含浸濾紙法による環境調査を月に1回、特別収蔵庫、一時保管庫、映像収蔵庫、民俗収蔵庫、写場、企画展示室、常設展示室、古文書整理室を中心に行い、それらの結果をもとに東京国立文化財研究所の指導を受けた。

また、シグマII型温湿度記録計による32日間連続測定を年間を通して継続して行った。

(7) 収蔵資料の貸出

資 料	期 間	貸 出 先
カズサジカ角	10月20日 ~ 1月10日	京都文化博物館
アジア象骨格ほか	4月1日 ~ 3月31日	多賀町教育委員会
琵琶湖集水域ヨコエビ類	12月17日 ~ 6月17日	京都大学
鮎カケ漁具一式	2月20日 ~ 4月10日	栗東歴史民俗博物館
唐橋遺跡出土資料	5月20日 ~ 5月30日	信濃国分寺博物館
畷式漁具一式	6月1日 ~ 9月1日	滋賀県立近代美術館
淡水エイ	7月12日 ~ 8月31日	宮津エネルギー研究所
コウライギギほか	8月25日 ~ 10月20日	海の中道海洋生態科学館
ビワコオオナマズほか	10月4日 ~ 11月30日	志摩マリンランド
カワムツほか	11月2日 ~ 11月4日	生駒市生活環境部

(8) 資料調査研究員

琵琶湖博物館の展示、調査・研究、情報、交流・サービス事業など博物館活動に必要な資料・情報の調査、収集等の協力を求めるため、琵琶湖博物館資料調査研究員を選任し、博物館活動への協力を依頼している。

平成9年度は、地学系5名、歴史系5名、環境系10名、計20名に協力をお願いして、各種情報・資料の提供を受けた。

資料調査研究員名簿

氏 名	専 門	所 属
地学系 飯村 強	化石	
磯部 敏雄	鉱物	
岡村 喜明	古生物学	開業医
服部 昇	層序学	県立大津商業高校
藤本 秀弘	層序学	私立東山高校
歴史系 土井 通弘	書跡・典籍	県立琵琶湖文化館
中井 均	考古学	米原町教育委員会
八杉 淳	文献史学	草津市街道文化情報センター
高梨 純次	美術史	県立近代美術館
中川 正人	保存科学	滋賀県埋蔵文化財センター
環境系 武田 栄夫	気象・気候	日本気象協会関西本部
本郷 次雄	菌類	滋賀大学教育学部
青木 繁	種子植物	県立朽木いきものふれあいの里
西田 謙二	高等植物	県立石山高校
南 尊演	植物・昆虫	県立東大津高校
細井 正史	昆虫(蝶類)	
白杉 滋朗	昆虫(甲虫)	
中川 真澄	地域社会史	山東町立山東東小学校
高橋さち子	魚類	龍谷大学
井上 茂	鳥類	

(9) 資料評価委員

博物館として重要な資料の購入や受贈等にあたって、博物館資料としての学術的評価と価格評価を行うため、あらかじめ選定しておいた33名からなる資料評価者名簿をもとにしながら資料評価委員を選任し、資料評価を依頼している。

平成9年度は、資料購入にあたって1件の資料評価を受けた。

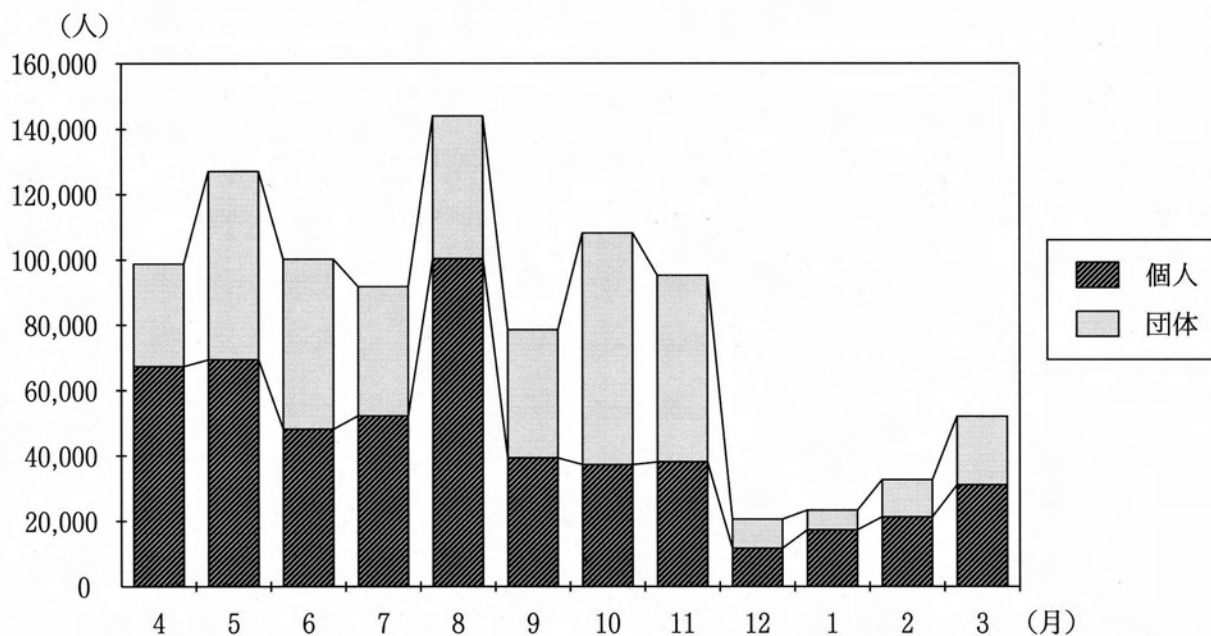
Ⅱ 利 用 状 況

1 平成9年度入館者数

(1) 総入館者数

年 月	開館 日数 (日)	有 料 入 館 (人)				無 料 入 館 (人)							総 計 (人)	1日当 り平均 (人)	
		一 般	高大学生	小中学生	有料計	65歳以上	身障者	家庭の日	体験学習	子供の日	学校行事	その他			無料計
9 4	26	70,600	3,213	17,072	90,885	2,706	1,042	807	104		2,913	344	7,916	98,801	3,800
9 5	27	85,380	6,520	20,547	112,447	3,824	1,380	580	412	3,980	4,342	189	14,707	127,154	4,709
9 6	25	76,515	2,498	11,437	90,450	3,755	1,072	413	221		4,081	231	9,773	100,223	4,009
9 7	27	70,062	2,267	14,142	86,471	2,964	858	458	40		631	367	5,318	91,789	3,400
9 8	27	99,972	4,648	33,733	138,353	2,662	1,029	365	36		842	794	5,728	144,081	5,336
9 9	20	62,270	2,033	10,301	74,604	1,454	1,066	277	25		1,082	67	3,971	78,575	3,929
9 10	27	67,605	3,849	21,455	92,909	3,306	1,212	371	182		10,126	178	15,375	108,284	4,011
9 11	26	71,454	2,266	13,996	87,716	2,148	808	303	243		3,575	419	7,487	95,203	3,662
9 12	22	16,740	704	1,704	19,148	443	192	84	60		548	112	1,439	20,587	936
10 1	22	18,506	694	2,430	21,630	336	215	255	13		518	374	1,711	23,341	1,061
10 2	23	25,161	886	4,334	30,381	536	379	197	57		1,015	191	2,375	32,756	1,424
10 3	26	38,526	1,679	8,931	49,136	991	421	0	22		1,432	94	2,960	52,096	2,004
計	298	702,791	31,257	160,082	894,130	25,125	9,674	4,110	1,415	3,980	22,005	3,351	78,760	972,890	3,265

平成9年度 月別来館者数



(2) 学校等入館者数

上段(全体) 下段(県内)

年 月		小 学 校		中 学 校		高 校		その他学校		総 計	
		学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数
9	4	18	1,778	7	777	16	2,617	1	42	42	5,184
		3	346	3	326	13	2,261	0	0	19	2,933
9	5	83	5,659	25	3,231	31	5,016	3	109	142	14,015
		48	2,735	3	296	6	1,192	1	33	58	4,256
9	6	28	2,064	24	4,420	14	2,377	3	24	69	8,885
		22	1,571	8	1,580	4	978	3	24	37	4,153
9	7	10	626	4	217	4	95	2	23	20	961
		8	482	3	48	1	16	2	23	14	569
9	8	15	644	6	138	2	178	2	55	25	1,015
		15	644	3	61	0	0	1	43	19	748
9	9	19	1,691	4	460	3	695	0	0	26	2,846
		6	388	1	5	2	661	0	0	9	1,054
9	10	243	20,005	32	4,928	18	2,764	10	365	303	28,062
		109	8,305	9	1,208	2	486	6	157	126	10,156
9	11	51	3,703	29	5,475	8	932	2	58	90	10,168
		36	2,352	6	723	3	214	2	58	47	3,347
9	12	3	99	2	25	8	504	1	44	14	672
		1	11	1	2	7	450	1	44	10	507
10	1	8	803	0	0	0	0	0	0	8	803
		5	519	0	0	0	0	0	0	5	519
10	2	29	2,234	3	292	1	32	3	109	36	2,667
		11	540	2	257	1	32	2	71	16	900
10	3	20	1,370	6	745	7	730	2	44	35	2,889
		8	442	2	103	5	612	2	44	17	1,201
計		527	40,676	142	20,708	112	15,940	29	843	810	78,167
		272	18,335	41	4,609	44	6,902	20	497	377	30,343

(3) 曜日別入館者数

年	月	日曜・祝祭日	土曜日（祝日除く）	その他	計
9	4	42,199	18,589	38,013	98,801
9	5	62,854	18,453	45,847	127,154
9	6	40,462	19,327	40,434	100,223
9	7	37,947	14,345	39,497	91,789
9	8	39,779	29,084	75,218	144,081
9	9	43,531	16,105	18,939	78,575
9	10	32,550	16,335	59,399	108,284
9	11	42,299	14,635	38,269	95,203
9	12	7,529	4,881	8,177	20,587
10	1	9,593	6,197	7,551	23,341
10	2	15,875	6,707	10,174	32,756
10	3	25,206	7,024	19,866	52,096
計		399,824	171,682	401,384	972,890
構成割合%		41.1	17.6	41.3	100



入館者100万人突破

8月19日 開館251日目で100万人目の入館者を迎える。

当初の予想をはるかに超えるスピード達成となった。

2 来館者アンケート調査結果報告

(1) 経 過

来館者動向を把握するために、平成8年度に引き続いて a) 来館回数、b) 情報源、c) 年齢、d) 住まいの4点について平成9年度には以下のように3回のアンケート調査を実施した。

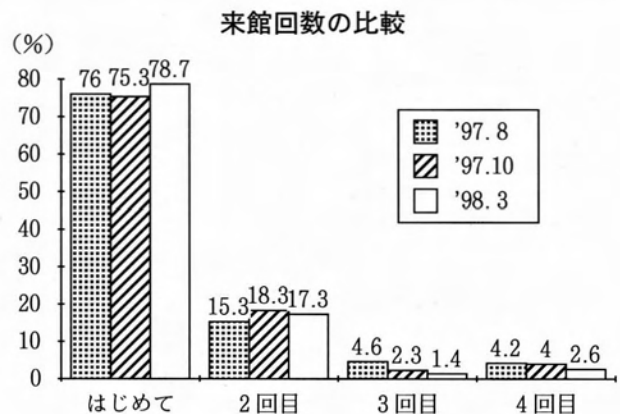
回	調 査 期 日	回 答 者 数
1	1997年8月15～8月17日	749人
2	1997年10月28～11月3日	703人
3	1998年3月20～3月22日	420人

(2) 結 果

a) 来館回数：『リピーターが増加傾向にある』

3回の調査でリピーターの割合は、24.7～21.3%であった。1998年3月の調査結果と昨年度同期（1996年3月）のそれを比較すると、来館4回以上の方が倍増（1.3%→2.6%）、2回目の方が約5%増加（12.4%→17.3%）した。一方で初回の方が若干減るなど（83.7%→78.7%）、リピーターの割合が5%増加した。

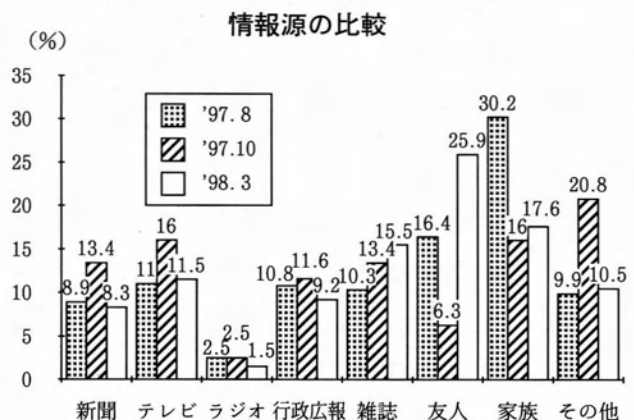
来館回数	1997年8月	1997年10月	1998年3月
回答者数(人)	721	596	417



b) 情報源：『情報源は相変わらず友人・家族などの口コミ主流。また、雑誌もふえる』

結果は調査時期によって大きく異なった。8月には最も多いのが家族（30.2%）、2番目が友人（16.4%）であったが、これはお盆時期の調査であったため実家に里帰りした方たちが、家族や友人とともに来館したものであろう。10月の調査では、家族（16%）とテレビ（16%）が並んでもっとも多く、2番目も雑誌（13.4%）と新聞（13.4%）が横並びとなった。3月の調査では、多い順番に友人（25.9%）、家族（17.6%）、雑誌（15.5%）となった。

情報源(複数回答)	1997年8月	1997年10月	1998年3月
回答者数(人)	873	749	459



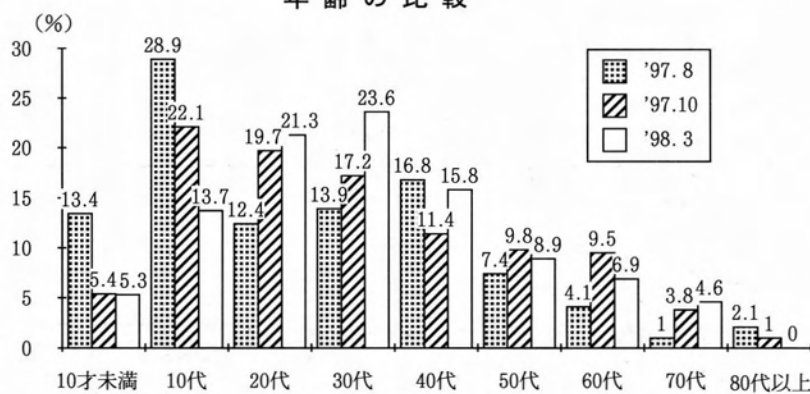
昨年度3月の調査では、友人・家族等の口コミと新聞・テレビ・ラジオなどのマスメディアとがほぼ半々であったが、今回は後者の割合が下がり（32.3%→21.3%）、前者による来館割合がさらに増加した（35.9%→43.5%）。また、行政広報の割合が下がる一方、雑誌の割合が増えているのが注目された。

c) 年齢層：『年齢は若年層から中・壮年層へ、またピーク年齢層は20代から30代へ』

年 齢	1997年 8 月	1997年10月	1998年 3 月
回答者数 (人)	749	702	420

年 齢 の 比 較

年齢層も調査時期によって大きく異なった。8月に20才未満の子供が42.3%をも占めたのは30～40代の大人が多かったことと合わせて考えれば、お盆時期に家族連れが多かったことの反映であろう。10月の調査では、多い年齢層が10代、20代、30代、40代ときれいに並んだ。3月には、30代（23.6%）にピークがあり、以下、20代（21.3%）、40代（15.8%）と両端に成層した。



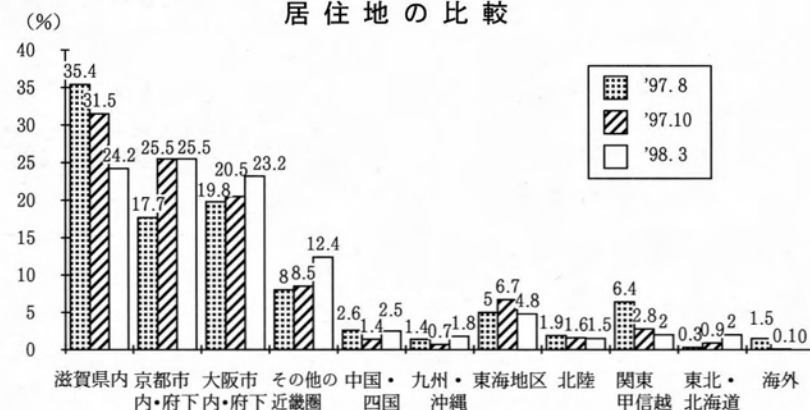
3月の結果を昨年度の同時期と比較すると、昨年は20代未満の来館者が全体の約3割を占めていたが、今回は2割未満（27.9%→19.0%）に減少し、20才代以上の来館者が増加した。中でも、30才代の増加が著しく（18.4%→23.6%）、また60～70才の高齢者層の増加も目についた。

d) 住まい：『大阪・京都からの来館者が激増した』

住 ま い	1997年 8 月	1997年10月	1998年 3 月
回答者数 (人)	723	702	396

居 住 地 の 比 較

昨年度3月の調査では、来館者の5割強が県内の方であったが、今回は大阪・京都、その他近畿圏からの来館者が大幅に増加した。逆に県内からの来館者がほぼ半減した（54.0%→24.2～31.5%）。



以上を総括すると、前年同期の調査結果と比べて、まず目につくのが来館者の居住地割合の変化である。すなわち、今回の調査結果からみる限りでは、来館者の居住地が、県内中心から大阪・京都といった近畿圏へと大きく移行している。これは、当館が関西方面へ広く知れ渡ってきたことを示していると同時に一方では、県内へは当館の存在がほぼ知れ渡り、県内来館者がほぼ飽和状態に達していることを示している。さらに、来館者の年齢層が昨年度と比較し、若干高齢者側へと移行し、一方で児童・生徒の減少傾向がみられた。また、博物館愛好者であるリピーターが確実に増加していることが伺える。

3 新聞掲載（取材）記録

月	日	記事タイトル	新聞社名	月	日	記事タイトル	新聞社名
4	5	琵琶湖保全に世界の目「汚染の象徴」返上	読売新聞	5	22	滋賀「琵琶湖博物館」 楽しみながら湖を学習	秋田さきがけ
	5	好調 琵琶湖博物館 入館者半年で50万人に迫る	日本経済新聞		23	「世界古代湖会議」市民も参加を	読売新聞
	12	琵琶湖博物館 入門セミナー案内	朝日新聞		23	滋賀県立琵琶湖博物館 大迫力の水槽トンネル	産経新聞
	15	烏丸半島民間ゾーン 外資の商業施設開発へ	毎日新聞		24	凡語より 琵琶湖産フナの不漁はどうして	京都新聞
	15	琵琶湖畔に商業施設	日本経済新聞		26	世界古代湖会議 来月22日から8日間琵琶湖博物館にて	毎日新聞
	15	烏丸半島 商業施設競争さらに激化	産経新聞		27	転換期の地域経済 人気呼ぶ琵琶湖博物館	京都新聞
	15	烏丸半島開発 日米企業連合が大規模商業施設	京都新聞		28	ひと模様 植物化石から進化たどる木田千代美さん	京都新聞
	18	コーナーキック琵琶湖博物館へどうぞ	中日新聞(夕刊)				
	19	琵琶湖博物館入館者54万人突破	京都新聞	6	2	世界古代湖会議一般参加者募る	朝日新聞
	25	琵琶湖博物館 見て触っての展示人気	山陽新聞		3	古代湖にタイムスリップ 琵琶湖博物館15日から企画展	京都新聞
	25	人気呼ぶ琵琶湖博物館	東奥日報(夕刊)		4	古代湖の価値探ろう 21日から研究者招き世界会議	朝日新聞
5	1	琵琶湖博物館 半年で55万人入場	中日新聞		4	古代湖の歴史分かりやすく 世界会議に合わせ企画展	毎日新聞
	2	県立博物館や美術館 5日に無料開放	京都新聞		4	ひと模様 社会学から保全問う 協田健一さん	京都新聞
	7	ひと模様 コイの歯から歴史が見える中島 経夫さん	京都新聞		7	古代湖の実態探る企画展開催 県立琵琶湖博物館	読売新聞
	7	GW期間の人出状況 琵琶湖博物館5万9000人	毎日新聞		7	「エコ体験隊」琵琶湖の環境観察	京都新聞
	8	湖国随想 アフリカの湖国から届いた丸木舟 嘉田由紀子	中日新聞		8	22日から滋賀で世界古代湖会議	環境新聞
	8	県立琵琶湖博物館のアンケート調査 展示内容に高評価	産経新聞		10	琵琶湖と共に 水との豊かな関係、復活を 嘉田由紀子さん	京都新聞
	14	ひと模様 北米の「湖国」からアオコ研究に ジャン・ジャック・フレネットさん	京都新聞		10	成功させよう 世界古代湖会議	朝日新聞
	15	6月22日から古代湖会議 県立琵琶湖博物館で	読売新聞		11	古代湖は語る 世界会議を前に①	京都新聞
	15	古代湖に住む生物を考察 来月22日から世界会議	産経新聞		11	ひと模様 「魚の目線」で“かたき”見る 中井 克樹さん	京都新聞
	15	あなたもご参加を 世界古代湖会議	中日新聞		11	世界会議に合わせ「古代湖の世界」展開く	朝日新聞
	15	世界古代湖会議 来月22日から	京都新聞		12	古代湖は語る 世界会議を前に②	京都新聞
	15	滋賀県立琵琶湖博物館 体験型展示と景観人気	熊本日日新聞		13	世界古代湖会議に向け帆布生地バッグ制作	京都新聞
	16	琵琶湖博物館 来館、予想超す55万人	朝日新聞		13	古代湖は語る 世界会議を前に③	京都新聞
	19	ナマズの産卵バチリ 前畑 政善学芸員撮影	朝日新聞		14	古代湖は語る 世界会議を前に④	京都新聞
	20	琵琶湖博物館企画展「古代湖の世界」開催 来月15日から	中日新聞		16	古代湖は語る 世界会議を前に⑤	京都新聞
	20	生態学琵琶湖賞 琵琶湖博物館中島経夫専門学芸員が受賞	中日新聞		17	古代湖は語る 世界会議を前に⑥	京都新聞
	21	琵琶湖調査船「うみんど」始動	京都新聞		17	琵琶湖	京都新聞
	21	琵琶湖ものがたり 湖を守る 琵琶湖博物館の研究	中日新聞		17	「古代湖の世界」展にぎわう 県立琵琶湖博物館	中日新聞
	21	烏丸半島にレンタサイクル導入へ	京都新聞		17	湖と人と 世界古代湖会議を前に①	朝日新聞
	21	ひと模様 虫は環境問題にもつながる 八尋 克郎さん	京都新聞				

月日	記事タイトル	新聞社名	月日	記事タイトル	新聞社名
6 18	古代湖は語る 世界会議を前に⑦ キネレット湖	朝日新聞	6 26	世界古代湖会議 参加者ら漁民の暮らし視察	京都新聞
18	湖と人と 世界古代湖会議を前に② カワニナの楽園	朝日新聞	26	世界古代湖会議 3日目 参加者ら竹生島のカワウ生息地など見学	中日新聞
18	ひと模様 地域の個性を田んぼで探る 橋本 道範さん	京都新聞	26	琵琶湖の風の動き表示 観察ネットワーク完成	日本経済新聞
19	湖と人と 世界古代湖会議を前に③ 縄文のメッセージ	朝日新聞	27	世界古代湖会議 アフリカをテーマに討議	京都新聞
20	世界の古代湖を紹介 県立琵琶湖博物館	産経新聞	27	世界古代湖会議 アフリカの古代湖についてセッション開催	毎日新聞
20	湖と人と 世界古代湖会議を前に④ なれずし	朝日新聞	27	世界古代湖会議 海外の研究者に聞く〈上〉 オランダ・ライデン大進化生態学研究所講師兼研究員 ヴィッテ・フランスさん	京都新聞
21	古代湖の魅力満載 琵琶湖博物館にぎわう	読売新聞	27	世界古代湖会議 4日目 アフリカ大陸の生物保全策発表	中日新聞
21	湖と人と 世界古代湖会議を前に⑤ 葛籍尾崎遺跡	朝日新聞	27	現代のことば 6分の1と7分の1 嘉田由紀子	京都新聞
22	世界古代湖会議 準備会議始まる	朝日新聞	27	世界古代湖会議 アフリカビクトリア湖からの報告	朝日新聞
23	世界古代湖会議 きょうから開幕	中日新聞	28	世界古代湖会議 「生物と文化」で報告 きょう保全巡る宣言	朝日新聞
23	世界古代湖会議 草津で始まる	日本経済新聞	28	世界古代湖会議 5日目 研究者が意見発表	中日新聞
23	世界古代湖会議が開幕 生物多様性どう守る	京都新聞	28	世界古代湖会議 中国科学院教授が報告	読売新聞
23	滋賀県の行事 「古代湖の世界」展始まる	中日新聞	28	世界古代湖会議 海外の研究者に聞く〈中〉 米・カリフォルニア大デービス校教授 ベンジャミン・オーロブさん	京都新聞
23	草津で水産まつり 体長90cmのヤマトゴイ琵琶湖博物館へ	読売新聞	28	世界古代湖会議 「生物と文化」報告、討議	京都新聞
24	世界古代湖会議 「危機意識」は共通	朝日新聞	29	世界古代湖会議 本会議で共同宣言採択	朝日新聞
24	世界古代湖会議実質論議スタート 人との共存の道探る	京都新聞	29	世界古代湖会議 環境保全取り組み発表 住民参加の大切さ訴える	京都新聞
24	世界古代湖会議開幕 だれにも分かる言葉で語ろう	中日新聞	29	世界古代湖会議 海外の研究者に聞く〈下〉 国際生物科学連合事務局長 タラール・ユネスさん	京都新聞
24	世界の古代湖保全へ会議湖との共存後世まで	毎日新聞	29	世界古代湖会議閉幕 琵琶湖保全へ共同宣言	中日新聞
24	世界古代湖会議 初日は海外20か国から	読売新聞	29	世界古代湖会議 「共同宣言」採択し閉会	京都新聞
24	草津での世界古代湖会議 生態系の保護 活発に討論	産経新聞	29	世界古代湖会議閉会 一般参加者ら会議の意義強調	読売新聞
25	世界古代湖会議 琵琶湖デー	朝日新聞	29	世界古代湖会議が閉幕	毎日新聞
25	世界古代湖会議 一般市民発表	京都新聞	29	楽しみながら“湖と環境”のお勉強 琵琶湖博物館	スポーツニッポン
25	世界古代湖会議 国立民族学博物館・秋道教授が発表	京都新聞	29	世界古代湖会議 「市民フォーラム」に250人参加	京都新聞
25	世界古代湖会議 2日目 「生物」「文化」テーマに分科会	中日新聞	30	滋賀県の行事 古代湖会議始まる	中日新聞
25	凡語より 琵琶湖のアユについて	京都新聞	30	サイエンス バイカルアザラシの故郷 は北極海？世界古代湖会議で発表	読売新聞
25	世界古代湖会議 漁業から見た琵琶湖の異変	毎日新聞			
25	世界古代湖会議 「漁師が見た琵琶湖」報告	読売新聞			
25	世界古代湖会議 沖島漁協組合長 問題点などを発表	産経新聞			
25	ひと模様 微生物から食物連鎖解く 芳賀 裕樹さん	京都新聞			
26	世界古代湖会議出席者 竹生島・沖島の人と交流	朝日新聞			

月日	記事タイトル	新聞社名	月日	記事タイトル	新聞社名	
7	1 たのしきかなミュージアム 滋賀県立琵琶湖博物館	大阪新聞	7	24 Microbiology of the world Lake Biwa Museum	ASAHI EVENING NEWS	
	2 みんなのQ&A 地球環境編〈古代湖〉	朝日新聞		28	「きらめきの琵琶湖紀行」バスツアー客募集	京都新聞
	2 成果収めた世界古代湖会議 湖の多面的価値見いだす	京都新聞			30 琵琶湖博物館 自然に親しむイベント参加者募る	滋賀報知新聞
	2 ひと模様 水生植物への理解広めたい 芦谷美奈子さん	京都新聞			30 ひと模様 国際的な研究の拠点に	京都新聞
	3 サイエンスランド 生物多様性はいま	読売新聞	8		4 湖国随想 人はなぜ博物館に行くのか 布谷 知夫	中日新聞
	4 ひと タラール・ユネスさん（世界古代湖会議で来日した国際生物科学連合事務局長）	朝日新聞		6 ひと模様 なぞ多いピワマスにひかれて 桑原 雅之さん	京都新聞	
	4 せせらぎ 琵琶湖博物館で開かれた「世界古代湖会議」より	読売新聞		8 琵琶湖総合開発事業の集結記念式典やシンポ	産経新聞	
	4 滋賀・琵琶湖博物館で企画展 古代湖の生き物などを紹介	朝日小学生新聞		8 琵琶湖の集結でシンポ開く	毎日新聞	
	7 人人人 世界会議の裏方で奮闘 博物館広報担当の楠岡 泰さん	朝日新聞		8 琵琶湖総集結 より良い湖継承を	読売新聞	
	7 Next関西 世界古代湖会議 滋賀に24カ国から専門家集い琵琶湖巡り交流進む	日本経済新聞		13 ひと模様 “母なる内湖” 保全に智恵絞る 小笠原俊明さん	京都新聞	
	8 たのしきかなミュージアム 滋賀県立琵琶湖博物館	大阪新聞		18 県立琵琶湖博物館 あす、あさって入場者100万人へ	中日新聞	
	9 Museum of living history of Lake Biwa	ASAHI EVENING NEWS		19 琵琶湖博物館100万人	朝日新聞（夕刊）	
	9 Conserving Lake Biwa for Future Generations	ASAHI EVENING NEWS		19 琵琶湖博物館入館者 100万人突破	京都新聞（夕刊）	
	9 ひと模様 丸子船に先人の知恵見る 牧野 久実さん	京都新聞		20 ひと模様 鳥類研究は観察が基本 亀田佳代子さん	京都新聞	
	10 バイカル湖 アオコに泣く 世界古代湖会議で発表	朝日新聞		20 超人気！琵琶湖博物館 100万人突破	読売新聞	
	11 せせらぎ 琵琶湖博物館で開かれた「世界古代湖会議」より	読売新聞		20 琵琶湖博物館 あっさり100万人突破	朝日新聞	
	12 世界古代湖会議から①「古代湖の危機」	中日新聞		20 琵琶湖博物館 100万人突破	産経新聞	
	12 探してみよう湖国の宝 キャンペーン始まる	京都新聞		20 県立琵琶湖博物館 入館100万人超す	毎日新聞	
	13 世界古代湖会議から②「保全への取り組み」	中日新聞		20 琵琶湖博物館入館者 100万人突破	京都新聞	
	14 文化 古代湖からの発信	読売新聞		20 琵琶湖博物館入館100万人目は原さん	中日新聞	
	15 たのしきかなミュージアム 滋賀県立琵琶湖博物館	大阪新聞	20 「第7回生態学琵琶湖賞」授賞式琵琶湖博物館で	日本経済新聞		
	16 琵琶湖 アユの子 受難	毎日新聞（夕刊）	20 琵琶湖博物館入館100万人	日本経済新聞		
	16 Lake Biwa Museum	THE DAILY YOMIURI	23 やわらか頭が受けました！琵琶湖博物館入館者100万人突破	毎日新聞		
	19 琵琶湖を巡る観光バス運行	中日新聞	24 琵琶湖博物館企画展示「古代湖の世界」	International Press（スペイン語版）		
23 ひと模様 甲殻類解明には分類が大切 マーク・ジョセフ・グライガーさん	京都新聞	24 琵琶湖博物館で標本相談室	京都新聞			
24 ひと 学術会議の住民参加に尽力 琵琶湖博物館統括学芸員 嘉田由紀子さん	日本経済新聞	24 琵琶湖博物館で夏休み相談室	中日新聞			
		24 琵琶湖博物館 夏休み標本相談室	産経新聞			
		25 昆虫や植物の相談室が人気	朝日新聞			
		26 標本の名前調べ 琵琶湖博物館学芸員らチェック	読売新聞			
		9 1 こんな夏でした 琵琶湖博物館開館10ヶ月で入館者100万人突破	朝日新聞			
		3 ひと模様 なぜ起こる湖水の流れ 戸田 孝さん	京都新聞			

月日	記事タイトル	新聞社名	月日	記事タイトル	新聞社名
9 5	琵琶湖博物館 8日から臨時休館に	中日新聞	10 31	里山考 日本の原風景、進む荒廃	朝日新聞
10	ひと模様 バカにできない単細胞生物	京都新聞	11 4	琵琶湖博物館で企画展「北海道の淡水魚」	京都新聞
	楠岡 泰さん		4	湖国随想 小さな写真の物語 嘉田由紀子	中日新聞
11	県立琵琶湖博物館のアンケート調査 全国的に人気拡大	読売新聞	5	故橋本鉄男さんの原稿を集めた「丸子船物語」刊行	京都新聞
18	秋を味わう、琵琶湖一周の旅。	毎日新聞(夕刊)	5	児童・生徒科学研究 琵琶湖博物館で展示	読売新聞
21	県立琵琶湖博物館 お答えします「質問コーナー」	中日新聞	6	21世紀の滋賀へ リリース禁止で固有種保護	毎日新聞
24	社説 琵琶湖博物館の次なる一步を	京都新聞	8	バスレイク琵琶湖「400万年」との共生をめざして	産経新聞
26	琵琶湖ものがたり 世界湖沼会議の前に	中日新聞	8	烏丸半島 暴走行為は禁止	京都新聞
28	人気呼ぶ琵琶湖博物館	公明新聞	10	琵琶湖博物館で学生科学賞県展表彰式	読売新聞
10 2	絶滅危ぐ種見つけちゃった	読売新聞	11	琵琶湖博物館 「北海道の淡水魚」展	毎日新聞
2	貴重な水草 見つけたよ	毎日新聞	12	県立琵琶湖博物館 「北海道の淡水魚」展	朝日新聞
2	ミズアオイ 小学生見つけた	朝日新聞	12	琵琶湖博物館 企画展「北海道の淡水魚」	産経新聞
2	生息が確認された「ミズアオイ」絶滅危惧種にも指定	産経新聞	27	対談 京都温暖化防止京都会議特集 嘉田由紀子さん	京都新聞
2	これが絶滅危ぐ種「ミズアオイ」	中日新聞			
2	ミズアオイ見つけた	京都新聞(夕刊)	12 5	よし笛 丸子船を見た	京都新聞
3	草の中にオニフスベキノコ発見	京都新聞	7	温暖化防止会議出席者ら 博物館見学	朝日新聞
3	交遊サーフィン 川那部浩哉さん	読売新聞(夕刊)	7	温暖化防止京都会議参加者 琵琶湖ツアー	中日新聞
4	琵琶湖博物館企画展 琵琶湖の「今昔」を紹介	朝日新聞	7	温暖化防止会議出席者 県が「琵琶湖ツアー」	産経新聞
9	琵琶湖博物館一周年企画 琵琶湖の“昔”と“今”を対比	京都新聞	7	京都会議参加者招き「環境熱心県」をアピール	毎日新聞
10	民俗学者の橋本鉄男さんしのぶ会	中日新聞	8	とめよう!温暖化 京都会議参加者 琵琶湖博物館など視察	読売新聞
15	リリース禁止のバス釣り大会	毎日新聞(夕刊)	8	琵琶湖博物館 人気の秘密は?	京都新聞
18	琵琶湖博物館20日で開館一周年	産経新聞	11	「丸子船物語」出版 橋本鉄男さんの絶筆や原稿を整理	毎日新聞
19	琵琶湖博物館あす一周年	読売新聞	19	わたしの'97 古代湖会議	朝日新聞
19	県立琵琶湖博物館あす開館一周年	中日新聞	21	'97湖国ビデオ 初の世界古代湖会議	京都新聞
19	烏丸半島 夜間暴走禁止看板設置へ	京都新聞	21	琵琶湖再生へ官民が一丸	東奥日報
20	県立琵琶湖博物館開館一周年シンポ	朝日新聞	23	読者の窓 烏丸半島の開発は県政理念逆行	京都新聞
20	琵琶湖博物館一周年記念シンポ「湖とともに生きよう」	京都新聞	24	烏丸半島内道路夜間通行止	京都新聞
21	琵琶湖博物館開館一周年 入場者120万人を突破	日本経済新聞	25	烏丸半島 夜間通行止めに	毎日新聞
24	丸子船研究の父 民俗学者橋本鉄男さん絶筆出版	読売新聞	25	滋賀県 10大ニュース 初の世界古代湖会議	京都新聞
25	絶滅危ぐの水草 ミズアオイ 小4年生発見	日本経済新聞	26	現代のことば チムエムエ君の悩み 嘉田由紀子	京都新聞
26	Young girl daiscovers endangered water plant	THE JAPAN TIMES	31	県立琵琶湖博物館のアンケート調査 県外からの来館7割	読売新聞
29	“今”「琵琶湖」くっきり“昔”琵琶湖博物館企画展	読売新聞	1 8	近江数学(かずがく)1,000,000人	朝日新聞
30	読者の窓 琵琶湖博物館企画の再考を	京都新聞	8	琵琶湖博物館の風観測システム 風当たり強く暗礁	朝日新聞(夕刊)
30	現代のことば 一枚の写真から 嘉田由紀子	京都新聞(夕刊)	10	県立琵琶湖博物館 琵琶湖の「今昔」比較	朝日新聞
31	よし笛 琵琶湖博物館開館一周年	京都新聞			

月日	記事タイトル	新聞社名	月日	記事タイトル	新聞社名	
1	11 琵琶湖博物館の体験学習会 冬の渡り鳥を観察	京都新聞	2	9 琵琶湖博物館「琵琶湖の水鳥観察会」開催	朝日新聞	
	13 かんさいおもしろどころ 琵琶湖に太公望の基地	朝日新聞(夕刊)		20 圧巻!トンネル水槽 琵琶湖博物館	サンケイスポーツ	
	18 琵琶湖の固有種、ホンモロコ激減	朝日新聞		21 琵琶湖保全 川那部館長が部会長に	京都新聞	
	21 琵琶湖の保全計画策定へ	産経新聞		21 琵琶湖総合保全計画調査 川那部館長が部会長に	京都新聞	
	23 琵琶湖底から絶滅したコイの歯	読売新聞		27	現代のことば ルーズソックスと破れジーンズ 嘉田由紀子	京都新聞
	23 6500年前のコイの歯。琵琶湖底で発見	産経新聞			3 2 琵琶湖博物館 リポーター意見交換会	読売新聞
	23 琵琶湖の縄文遺跡 絶滅のコイ属歯の化石出土	朝日新聞			2 県立琵琶湖博物館 リポーター30人が交流会	産経新聞
	23 琵琶湖畔。絶滅種コイの新種の歯を発見	中日新聞			2 琵琶湖博物館 リポーター交流会 湖国の自然再発見	京都新聞
	23 赤野井湾遺跡 絶滅種の歯見つかる	毎日新聞			2 湖国随想 何となく思い込んでしまう 布谷 知夫	中日新聞
	24 烏丸半島 4ヶ国語で観光マップ	読売新聞			6 琵琶湖の周辺撮り続けた前野隆資さん死去	朝日新聞
	27 交流協会 烏丸半島紹介マップ作成	朝日新聞			7 前野さん(県写真連盟名誉会長)死去	読売新聞
	27 50万年前のツルの足跡 大津で出土	読売新聞(夕刊)			11 生態系保護へ「えり」設置	京都新聞
	27 50万年前のツルの足跡 大津市で化石発見	京都新聞(夕刊)			16 国際協力事業団が生態総合調査 琵琶湖博物館などと共同	朝日新聞
	27 ツルの足跡は50万年前? 大津で化石発見	朝日新聞(夕刊)			17 琵琶湖の幸はいま...釣っても食べぬ世代	朝日新聞(夕刊)
	28 国内初 50万年前の鳥類の足跡発見	毎日新聞		18 琵琶湖の幸はいま...胃袋で環境を考える	朝日新聞(夕刊)	
	28 50万年前ツルは舞い降りた	中日新聞				
	28 鳥類の足跡化石見つかる	産経新聞				
2 1 週間ニュースバック 古琵琶湖層にツルの足跡化石	中日新聞					

4 雑誌関係記事掲載（取材）記録

月日	記事テーマ	掲載雑誌名等	月日	記事テーマ	掲載雑誌名等
4 1	小旅行滋賀県立琵琶湖博物館を訪ねて	よかちょう No.12	6 1	琵琶湖を学ぼう！滋賀県立琵琶湖博物館	お茶にしましょ Vol.30
1	滋賀の観光 滋賀県立琵琶湖博物館	'97京都ガイド 観光便覧	1	水の環境文化孝 人と湖	200V MAGAZINE MAISON VOL. 8
28	滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県立琵琶湖博物館 琵琶湖をまるごと体験 新撰 淡海木間攪 烏丸コアの鬼界アカホヤ火山灰層 山崎 博史	びあ 関西版 アミューズメント Book'97 Duet'97 VOL.53	10	レイクサイドで深呼吸 琵琶湖博物館	レタスクラブNo.16
	集まれ！知的好奇心 琵琶湖博物館 滋賀県立琵琶湖博物館	まるまど VOL.43 (奈良県職だより)	17	レジャーニュース 琵琶湖博物館へ	滋賀県名古屋観光物産情報センター
	日本 滋賀県立琵琶湖博物館が注目 滋賀県立琵琶湖博物館オープン	'97-'98 関西緑の遊び場 ブリタニカ国際年鑑 1997年度版 newWAVE 18号	18	滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県立琵琶湖博物館	水族館に行こう ラ・ヴィ・ドゥ・トラントン6月号
	琵琶湖とアユを見つめる人々 滋賀県立琵琶湖博物館 世界古代湖会議「古代湖における生物と文化の多様性」 河野光子の収集品が琵琶湖博物館へ 日帰り旅行プラン	AQUALOG No.59 '97関西年鑑 関西イベントファイル 1997年 ふくしま女の時代 JTB 4~11月 (パンフレット)		琵琶湖博物館	おーえる Cong Vol.26 CEL No.41
5 8	琵琶湖からの発信 川那部浩哉	MAGAZINE TODAY	7 10	滋賀県立琵琶湖博物館	近畿税理士界 No.399
15	琵琶湖博物館	れいめい(社内報)	11	NewSpot 滋賀県立琵琶湖博物館 企画展「古代湖の世界」	わたしの京都発見マガジン360° ASAHITVウォーク 滋賀
20	滋賀県立琵琶湖博物館 (外国報道機関記者関西プレスツアー参加記事)	週間エコノミスト (韓国中央日報社)		草津市のザリガニになれる部屋に遭遇！ 滋賀県立琵琶湖博物館 ホットなところ紹介 滋賀県立琵琶湖博物館 企画展「古代湖の世界」	FROM A Number 27 びあ 関西版 湖北水上安全だより 7月号 ケイコとマナブ Vol.52 石楠花 Vol.10
20	行ってみたい水族館案内 琵琶湖博物館	ダリア 第306号		滋賀県立琵琶湖博物館紹介 屋外展示を中心に 滋賀県立琵琶湖博物館	日経 CADENZA NO.59
27	滋賀県立琵琶湖博物館 新撰 淡海木間攪 “しが”の名前のついた象化石 高橋 啓一 西の行楽地 琵琶湖博物館 淡海ルポ 滋賀県立琵琶湖博物館 ホリデー・マニュアル 滋賀県立琵琶湖博物館 座談会エクセレントな地球を考える 嘉田由紀子さん	日刊ケミカルニュース Duet'97 VOL.54 週間現代 No.19・20 SAY RUN PLAZA 5月号 Club Fame No.155		お出かけマップ 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県立琵琶湖博物館 何度も訪れたい楽しさ 滋賀県立琵琶湖博物館 新撰 淡海木間攪 木の器各種 布谷 知夫 博物館と藻類 新手の微細藻類展示 川の宝物 滋賀県立琵琶湖博物館	エッグNo.54 MOE(萌) VOL.64 バルレ VOL.13 Duet'97 VOL.55 藻類 さらさ'97 夏
6 1	世界古代湖会議開催 琵琶湖博物館	ニュー滋賀			
1	滋賀県立琵琶湖博物館	Kansai Walker 6/1号			
1	琵琶湖博物館	朝日ブライダルサロン			

月 日	記 事 テ ー マ	掲載雑誌名等	月 日	記 事 テ ー マ	掲載雑誌名等
7	夏の旅行 琵琶湖博物館 みなさま ー旅ですよー びわこ博物館 夏休みに行く文化スポット 琵琶湖博物館 琵琶湖の魚ウォッチング 滋 賀県立琵琶湖博物館	JTB7～9月 (パンフレット) JTB夏の旅 (パンフレット) TAKATA NEWS no.89 自然の遊び場	10 8 25 28 30 31	遊ゾーン 琵琶湖博物館 秋の里山の歩き方 去りゆく秋に芸術 琵琶湖博 物館へ 催しのあれこれ 琵琶湖博物 館 博物館も変わらなきゃ 滋賀 県立琵琶湖博物館 県立琵琶湖博物館	読売ファミリー 滋賀リビング 京都産業大学新聞 そよかぜ(エコライ フ通信) vol.19 生涯学習空間 No.7 EKUBO CLUB 10月号 こどもびわ おでかけ 東急トップツアー (パンフレット) 歴史の旅人VOL.12 もっとミュージアム Vol. 0
8	1 科学・自然施設 滋賀県立琵 琶湖博物館 11 琵琶湖博物館「田んぼ体験教 室」始まる 11 琵琶湖博物館企画展「古代湖 の世界」 モノが語る淡海文化 琵琶湖 博物館 琵琶湖の歴史を探ろう。琵琶 湖博物館 滋賀県立琵琶湖博物館 日帰りで楽しむ夏休み 滋賀 県立琵琶湖博物館 滋賀県立琵琶湖博物館	子どもの文化 農林水産情報9-11 びわ 関西版 りっぶる淡海 vol.3 中古車情報誌・グー Vol.60 びわ 関西版 ステーション8月号 ミセス8月号	11 1 14 15 22 23	琵琶湖博物館企画展「私とあ なたの琵琶湖アルバム」 僕の行きつけ「琵琶湖博物館」 自然史博物館的「楽修」考 ファミリーにおススメ「滋賀 県立琵琶湖博物館」 森林伐採で安曇川のアルミ増 ザ・源流 滋賀県立琵琶湖博 物館 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県立琵琶湖博物館 ミュ ジウム観察会 琵琶湖博物館「今、琵琶湖で 1番人気のスポットです」 滋賀県立琵琶湖博物館 ピュアミュージアム 水がめ (写真提供) 琵琶湖博物館 観察会お知らせ 境界線上の動物たち“ウシモ ツゴ”	らんらん VOL.18 シティリビング Cultivate 7号 キャラママファミリー つりサンデー 自己表現 11月号 Hanako WEST No.87 ケイコとマナブ Vol.56 MOM 11月号 あおぞら(社内報) PURE Vol.24 Duet'97 VOL.57 BE-PAL 11月号
9	琵琶湖・爽快ドライブ 滋賀 県立琵琶湖博物館 裏からみた水族館 滋賀県立 琵琶湖博物館を訪ねて 出逢いのかたち 多様性の含 意 ーあゆの近未来 琵琶湖博物館での一年 川那 部浩哉 滋賀県立琵琶湖博物館 琵琶湖一周 体験型の博物館 は見応え抜群! <トピックス・スペシャル> プランクトンの不思議な世界 県立琵琶湖博物館企画展「私 とあなたの琵琶湖アルバム」 ちょっとひと駅 滋賀県立琵 琶湖博物館 秋のバス旅行 琵琶湖博物館 RENEWALにっぽん ～琵琶湖博物館に学ぶ、今 後の自然との付き合い方～ 滋賀県立琵琶湖博物館 新撰 淡海木間攫 クセノキ プリスの咽頭歯 中島 経夫 とっておきドライブ 琵琶湖 博物館 救おう! レッドデータブック の動物たち“ネコギギ”	月刊くじら Vol.88 新機構情報 Vol. 5 地理 9月号 人環フォーラムNo.3 水族館ウォッチング 旅行読売9月号 AQUAS No.42 れいかる(秋号) JR西日本 (リーフレット) JTB秋の旅 (パンフレット) VIP Japan 9月号 月刊 発掘・情報 (創刊号) Duet'97 VOL.56 DUO'SCHORD 1997年秋号 WWF Vol.27	12 1	琵琶湖博物館「私とあなたの 琵琶湖アルバム」 休日おでかけスポット 滋賀 県立琵琶湖博物館 われは湖の子 琵琶湖 アル バムの章 近くていい旅 滋賀エリア 琵琶湖博物館 湖今東西 琵琶湖にマリモ? 湖畔に棲息する博物館 滋賀 県立琵琶湖博物館 川の宝物 もの言わぬものた ち(写真提供) 見逃せないこの冬の企画展ガ イド「北海道の淡水魚」	びいめーるVol. 0 マップル 長浜みーなVOL.49 JR西日本 (リーフレット) りっぶる淡海 vol.4 THEORIA Vol. 6 さらさ(川の情報誌) 第42号 ケイコとマナブ Vol.57

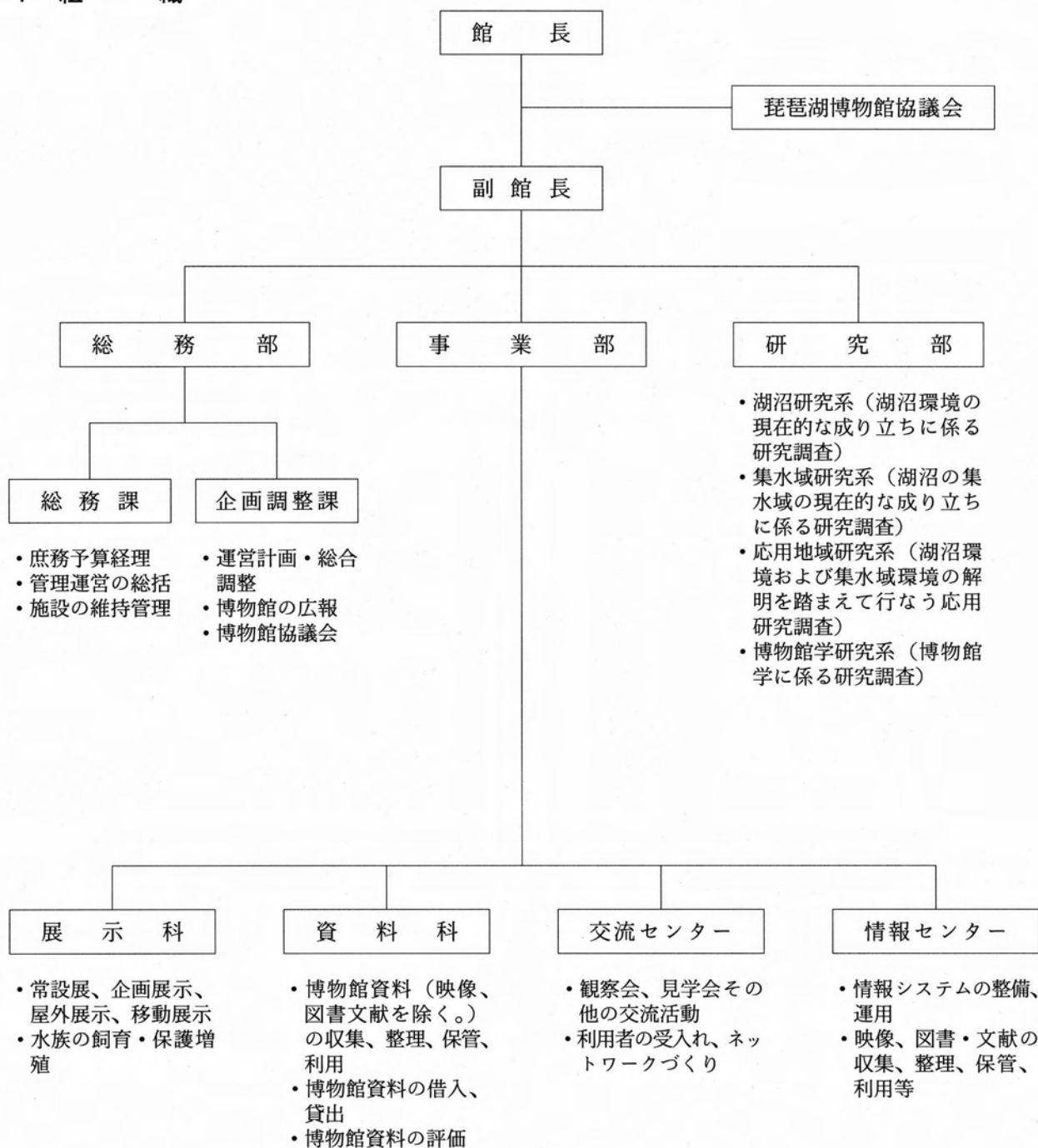
月日	記事テーマ	掲載雑誌名等	月日	記事テーマ	掲載雑誌名等
12	Lake Biwa Museum	KYOTO VISITOR'S GUIDE	2 23	県立琵琶湖博物館の催し「水族館探検隊」、「咽頭歯から地球の歴史を探る」琵琶湖をまるごと体験！滋賀県立琵琶湖博物館遊びに行こうよ 滋賀・琵琶湖博物館	ASAHI TV ウォーク滋賀
1 10	暮らしと共に20年 (写真提供)	京都東南, 南西, 北リビング			名古屋流行発信 CHEEK 2月号
12	博物館講座「琵琶湖の民俗・民族・みんぞく」案内	ASAHI TV ウォーク滋賀			じーえす no.503
15	湖と魚たちと音楽と①	IZUMI HALL Jupiter VOL.48			BE-PAL 2月号
26	川那部浩哉さん 体験学習の日プログラム「わら細工で楽しもう」。 「湖と人間」との共存を考える 滋賀県立琵琶湖博物館 県立琵琶湖博物館の企画展「私とあなたの琵琶湖博物館」 おススメ デートスポット 琵琶湖博物館	ASAHI TV ウォーク滋賀 滋賀るるぶ1月号 FRONT1月号 Bridal Club Vol.5		FIELD DATA NIPPONICA '98 滋賀県立琵琶湖博物館 県立琵琶湖博物館学芸員に聞く 中藤 容子さん 琵琶湖博物館 “生命の水”に生きる仲間たち (写真提供) 琵琶湖博物館	あかつみ Vol.86 ファイナンス 3月号 BY BLUE vol.1 小松家 (パンフレット)
	水中から見た琵琶湖バス事情 中井 克樹さん 琵琶湖博物館1周年で来館者120万人を突破 〈和の探訪〉街道のにぎわいを今に伝える草津 TATSUO KOBAYASI'S "I Want to Talk with This Person" with Yukiko Kada 琵琶湖博物館における展示と水処理施設 滋賀県立琵琶湖博物館 湖と人間のよりよい共存関係を考える	TOP ANGLER Vol.1 AM BUSINESS no.22 YANASE LIFE 1月号 Musee VOL.2 造水技術 Vol.24 CATS EYE Number.59.	3 20	琵琶湖周辺人気スポット 滋賀県立琵琶湖博物館	The Start
			31	草津を遊ぼう 滋賀県立琵琶湖博物館 湖と魚たちと音楽と② 川那部浩哉さん ハリヨと川と交流会と TiME TRiP「太古に遊ぶ」 ゾウ化石縁の地を訪ねて TOWN GUIDE 滋賀県立琵琶湖博物館 おうみねっと・エッセイ 春のぶらりびわ湖 琵琶湖博物館 エンターテイメント編 滋賀県立琵琶湖博物館	LECSAS IZUMI HALL Jupiter VOL.49 H20 No.18 りっふる淡海 vol.5 mini mini 京滋版 おうみネット No.4 近畿日本ツーリスト 4~7月(パンフレット) 関西ウォーカー
2 18	博物館で遊ぼう！琵琶湖博物館	Tokai Walker No.5			

5 テレビ放映・ラジオ放送（取材）記録

月	日	タイトル	テレビ会社名等	月	日	タイトル	テレビ会社名等	
4	1	I LOVE BIWAKO	びわ湖テレビ	11	25	めざましラジオ「ビワマス」	KBS京都ラジオ	
	3	ふれあい夢街道「琵琶湖の生き物たち」	びわ湖テレビ		30	Music BREEZE	Fmシガ	
	28	博物館へ行こう	民放ラジオ	12	1	滋賀県だより「ミュージアム観察会のお知らせ」	KBS滋賀ラジオ	
	29	ホリデーワイド 生きもの地球紀行「里山物語」 取材協力	朝日放送テレビ NHK科学番組部		13	デイリー情報しが「琵琶湖の水鳥について」	びわ湖テレビ	
5	6	ヨジキンTV	関西テレビ	1	24	めざましラジオ「冬の里山の生き物」	KBS京都ラジオ	
	11	走れ！ガリバーくん	テレビ愛媛 (関西テレビ放映)		26	デイリー情報しが「北海道の淡水魚」	びわ湖テレビ	
	12	社会科教材「中学生と資源・エネルギー・環境」(ビデオ)	関西電力		28	サンデー11しが「淡海あらかると」	びわ湖テレビ	
	8	痛快！エブリディ	関西テレビ		13	滋賀県だより「琵琶湖水鳥かんさつ会」	KBS滋賀ラジオ	
6	12	レイクサイド・モーニング77 「世界古代湖会議」	E-Radio	14	めざましラジオ「冬の里山の鳥」	KBS京都ラジオ		
7	1	びわ湖の日スペシャル・BIWAKO AID 2001「がんばれ！びわ湖の生き物たち」	びわ湖テレビ	14	14	BS水族館散歩 取材のみ	NHK.BS	
	5	'97「水の物語」	Wowow		22	ニュースパーク関西「ハリヨの生態」	NHKテレビ	
	9	めざましラジオ「ニゴロブナ」	KBS京都ラジオ		22	Time The Motion	FM愛知	
	10	ニュースワイド京都「琵琶湖の生態系は？」	京都テレビ		31	はまぐり御門劇場「ぶらり体験記」	京都テレビ	
	15	めざましラジオ「琵琶湖、世界湖代湖会議について」	KBS京都ラジオ		2	8	社会教室「まほうのちず」	びわ湖放送テレビ
31	琵琶湖岸に新しい風が(ビデオ)	佐川美術館	9	教育ウィークリーレポート		びわ湖テレビ		
8	18	YES・fm	エフエムちゅうおう	10	10	金沢発 うわさの王様	金沢MRO	
	21	湖南・中部地区 琵琶湖レイクサイドリゾート(ビデオ)	リゾート整備推進協議会		14	土曜特集「いま蘇る幻の漁」	NHKテレビ	
	31	夢 輝く女性たち	京都テレビ		23	めざましラジオ「カタツムリ」	KBS京都ラジオ	
9	1	MIHO MUSEUM(ビデオ)	秀明文化財団	21	21	Be FACTORY MUSIC	FM愛知	
	8	ニュースパーク関西「カルチャー&エンターテイメント」	NHKテレビ		3	1	ネットワーク滋賀 ウソ！ホント？不思議滋賀県	KBS京都テレビ
	15	発見！びわ湖ウォーク	民放ラジオ11社共同			6	ニュースパーク関西「カスミサンショウウオ」	NHKテレビ
10	20	めざましラジオ「里山の昆虫(オサムシ)」	KBS京都ラジオ	7	NHKラジオジャパン「コラム」	NHKラジオ		
	28	地域衛星通信ネットワーク「地域振興型複合レジャー施設」	企画県民部	14	ふるさと水物語「母なる琵琶湖・冬満喫」	びわ湖テレビ		
11	2	ニュースパーク関西「北海道の淡水魚」展	NHKテレビ	24	24	開運！なんでも鑑定団	テレビ東京	
	9	野鳥百景「キジバトの生態」	NHKBS第二放送		30	30	旅チャンネル	PerfecTV
	11	(株)乃村工芸社会社案内(ビデオ)	(株)乃村工芸社			1	1	ネットワーク滋賀 ウソ！ホント？不思議滋賀県
	14	ニューススクランブル「ボテジャコ」の生態	読売テレビ		6		ニュースパーク関西「カスミサンショウウオ」	NHKテレビ
	20	レイクサイド・モーニング77	Fmシガ		7		NHKラジオジャパン「コラム」	NHKラジオ
	21	ニュースパーク関西「ビワコダス」	NHKテレビ		14		ふるさと水物語「母なる琵琶湖・冬満喫」	びわ湖テレビ

Ⅲ 組織および運営

1 組織



職員構成（平成10年3月31日現在）

区分	館長(非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	13	29	2	45	16	61

2 職 員

- 館長 川那部 浩 哉
- 副館長 西 岡 信 夫

総務部

- 部長 高 瀬 藤一郎

◇ 総務課

- 課長(兼) 高 瀬 藤一郎
- 課長補佐 森 口 聖
- 専門員 菊 井 吉之蒸
- 調査員 鶴 飼 孝 司
- 主任主事 澤 村 治 男
- 同 安 井 和 治
- 主 事 渡 邊 裕 也
- 同 西 村 佳 子
- 同 皆 黒 一 恵

◇ 企画調整課

- 課長事務取扱(兼) 嘉 田 由紀子
- 専門員 森 野 泰 起
- (兼) 楠 岡 泰
- (兼) アンドリュー ロンター
- (兼) 中 井 克 樹
- (兼) 牧 野 久 実

事業部

- 部長(兼) 布 谷 知 夫

◇ 展示科

- 科長心得(兼) 高 橋 啓 一
- (兼) 小笠原 俊 明
- (兼) 桑 村 邦 彦
- (兼) 脇 田 健 一
- (兼) ジェン ジャック フレネット
- (兼) 松 田 征 也
- (兼) 芦 谷 美奈子
- (兼) 八 尋 克 郎
- (兼) 橋 本 道 範

◇ 資料科

- 科長心得(兼) 用 田 政 晴
- (兼) 内 田 臣 一
- (兼) マーク ジョセフ グライガー
- (兼) 桑 原 雅 之
- (兼) 里 口 保 文

◇ 交流センター

- 科長(兼) 前 畑 政 善
- 主査(教員) 高 橋 政 宏
- 主査(教員) 江 島 穰
- (兼) 水 上 二己夫
- (兼) 草 加 伸 吾
- (兼) 亀 田 佳代子
- (兼) 宮 本 真 二

◇ 情報センター

- 科長事務取扱(兼) 中 島 經 夫
- (兼) 秋 山 廣 光
- (兼) 戸 田 孝
- (兼) 木 田 千代美
- (兼) 中 藤 容 子
- (兼) 芳 賀 裕 樹

研究部

○部長(事務取扱) 川那部 浩 哉

◇ 湖沼研究系

総括学芸員 中 島 經 夫
 主任学芸員 楠 岡 泰
 同 アンドリュウ ロンター
 学 芸 員 松 田 征 也
 同 戸 田 孝
 同 芦 谷 美奈子
 同 中 藤 容 子
 学芸技師 中 井 克 樹
 同 牧 野 久 実
 同 芳 賀 裕 樹
 同 亀 田 佳代子
 同 里 口 保 文

◇ 集水域研究系

総括学芸員 嘉 田 由紀子
 主任学芸員 草 加 伸 吾
 同 高 橋 啓 一
 同 内 田 臣 一
 同 脇 田 健 一
 同 ジャン ジャック フレネット
 学 芸 員 木 田 千代美
 学芸技師 八 尋 克 郎

◇ 応用地域研究系

専 門 員 水 上 二己夫
 専門学芸員 前 畑 政 善
 主任学芸員 用 田 政 晴
 調 査 員 小笠原 俊 明
 主 査 桑 村 邦 彦
 学 芸 員 桑 原 雅 之
 同 宮 本 真 二

◇ 博物館学研究系

総括学芸員 布 谷 知 夫
 主任学芸員 秋 山 廣 光
 同 マーク ジョセフ グライガー
 主 査 高 橋 政 宏
 同 江 島 穰
 学芸技師 橋 本 道 範

臨時的任用職員・嘱託員

木 下 直 美	総務事務	矢 野 健	昆虫標本整理
田 中 玲	同	細 川 真理子	歴史民俗資料整理
小 菅 由有子	館長秘書	小 関 義 正	実習補助・団体利用受付
川 崎 真紀子	同	勝 島 治 美	生活実験工房運営
北 中 喜美子	ディスカバリールーム運営 (11/30退職)	吉 村 仙二郎	同 (7/7雇用)
瀬 川 也寸子	同	浜 尾 研 児	メディアラボ印刷・業務機器保守管理
谷 崎 誠 三	展示物の製作・維持補修	生 津 恵 子	図書情報利用室運営・図書資料整理
村 瀬 忠 義	植物標本整理		
北 方 常 視	地学標本整理 (6/30退職)		
馬 場 加依子	同 (7/7雇用)		

3 予 算

平成9年度歳入状況 (円)

科 目	収 納 額
使用料および手数料	411,750,906
財 産 収 入	4,611,900
雑 入	251,820
合 計	416,614,626

平成9年度歳出状況 (千円)

事 業 名	決 算 額
管 理 運 営 費 施設維持費、烏丸半島整備、事務費、開館記念行事	463,811
調 査 資 料 収 集 事 業 費 研究調査、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、 水族飼育	344,938
展 示 事 業 費 企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物	257,927
情 報 交 流 事 業 費 情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事 業開催、フィールドレポーター	135,641
合 計	1,202,317

4 滋賀県立琵琶湖博物館協議会

- 開催日時 平成9年10月20日(月) 14:00～17:00
- 場 所 国際湖沼環境委員会会議室
- 出席者 委員11名、事務局
- 議 事 ① 琵琶湖博物館開館後1年間の経過説明
② 今後の事業運営について

委員名簿

氏 名	現 職 等
上野勝代	京都府立大学生活科学部教授
富士谷英正	県議会琵琶湖環境農政水産常任委員会委員長
岡本幸助	県脊髄損傷者協会会長
斉藤一美	NHK大阪放送局付 元NHK天津放送局長
鄭大聲	滋賀県立大学人間文化学部教授
徳島りつ子	日本青年会議所広報渉外委員
栃本武良	姫路市立水族館長
畑治成	県中学校理科教育部会長 甲賀町立甲賀中学校長
中村正久	琵琶湖研究所長
西野嘉章	東京大学総合研究博物館助教授
原田英司	京都大学名誉教授
日高敏隆	滋賀県立大学学長
那須善之	県小学校長会理事 草津市立南笠東小学校長
古川研二	草津市長
吉本由理子	県青年団体連合会副会長

Ⅳ 平成9年度博物館ダイアリー

・印は、行事等を示す

月日	主な来館者・行事等	月日	主な来館者・行事等
4	2 札幌市議会議員	5	28 青森県都市計画課公園整備推進室主幹等
	3 下関市新水族館建設室室長		29 北九州市建築局建築部長等
	4 滋賀県新規採用職員研修		30 国土庁水資源部水資源政策課
	8 成安造形大学学生		宮津エネルギー研究所水族館
	10 滋賀県人事委員会委員		台湾省水利局等
	11 京都府久御山町自治功労者		(注)滋賀県物産振興会
	12 奈良教育大学教員養成課程	6	3 栃木県足利市選挙管理委員会委員等
	13 滋賀県警察学校新任警察官		日本総合研究所主任研究員
	15 京都府議会総務常任委員会委員		滋賀県土木事務用地課長
	16 水資源開発公団日吉ダム建設所		大津地方裁判所司法修習生
	全国私立高等学校定時制連絡協議会		岐阜県開発企業局経営企画課長等
	17 近畿2府4県人事委員会事務局長等		・本監査
	18 埼玉県本庄市議会		大阪府収用委員会委員等
	琵琶湖工事事務所所長等		全国工業技術試験場デザイン担当者
	19 琵琶湖汽船国際流研修生		岐阜県企画部企画調整課
	20 水族企画展「ブラジルの淡水魚」		・草津市内4年生児童体験学習開始
	一南米の大河と湖沼群の魚たち一 終了		10 愛知県農地林務部技監等
	ミュージアム利用研究会		11 農林水産省大臣官房地方課長等
	22 草津市立小学校教職員等		住宅・都市整備公団
	23 世界古代湖会議第1回実行委員会開催		12 神戸市灘区長等
上田市立信濃国分寺資料館館長等	関西公害防止管理者交流会		
24 三方町町民課長等	13 全国大学博物館学講座協議会		
25 吹田市議会議員	近畿2府4県教育委員		
ノートルダム女学院中学校	水資源開発公団高山ダム放流連絡会		
26 水資源開発公団関西支社	14 びわこデザイン文化協会		
30 琵琶湖汽船国際交流研修生	17 ミシガン州ベアジン・スプリング中学校		
滋賀県立大学環境科学部教授等	山梨県農政部花き農産課		
5	2 茨城県生活環境部長等	19 JICA社会資本関連環境影響評価コース	
	8 三笠宮崇仁親王殿下同妃殿下御視察	京都商工会議所文化部会	
	9 安雲川町エコライフ推進協議会	全国発明振興会議	
	13 働大阪市教育振興公社キッズプラザ大阪開設準備	22 京都府立丹後郷土資料館館長等	
	室長等	23 琵琶湖博物館開館記念事業世界古代湖会議	
	大阪湾ベイエリア開発推進機構事務局次長等	(ICAL'97) 本会議開催	
	14 箕面市水道管理者	25 上海市浦東新区青年連合会	
	KAMなんさつ推進協議会	29 世界古代湖会議閉会	
	15 予備監査	世界民俗文化研究会地域部会・飛騨地域広域行政	
	企画展「古代湖の世界」開催	組合	
	瑞浪市議会議員等	7	1 上田市議会議員
	指宿市議会議員		2 21世紀湘南・相模湾の水族館国際シンポジウム実
	湖南省経済代表団		行委員会(江ノ島水族館館長等)
	21 近畿府県監査委員協議会		滋賀県高等学校社会科教育研究会教員
	全国理科教育センター研究協議会技術・家庭部会		滋賀県農業共済連絡協議会
	23 湖南省賀同新副省長等		働志摩マリランド館長等
	佐賀県教育庁文化課参事等		ミシガン州派遣高校生等
国立10大学理学部部長会議	兵庫県立人と自然の博物館情報管理室長等		
大阪府高等学校生物教育研究会	5 滋賀県公立高等学校等教頭会		
27 住宅・都市整備公団	豊橋市文化財保護審議会会長等		
(注)日本建築協会	8 袋井市議会議員		

月日	主な来館者・行事等	月日	主な来館者・行事等		
7	9	豊岡市区長連合会役員等 新潟県立自然科学館 栃木県子ども総合科学館副館長等 大阪市立自然史博物館	8	5 滋賀県中学校教育研究会理科部会 6 滋賀県総務部部門研修 7 水資源開発公団副総裁等 国土庁審議官等 建設政務次官、近畿地方建設局河川部長等 ポンティアック市使節団等 彦根市教育研究会理科部会 福岡県企画振興部地域政策課企画監等 全国設備工業教育研究会	
	10	武生市消費者グループ連絡協議会会員等 栃木県議会議員等 中国遼寧省水利庁	8	彦根市教育委員会生涯学習課 水資源開発公団管理部部長等 栃木県文化課 滋賀県小学校教育研究会社会科部会教員 近畿各府県私立学校審議会委員、所管課職員 兵庫県農地整備課等	
	11	和歌山県金屋町教育委員会小中学校校長会 韓国農村振興庁等 びわこ・京阪奈線研究会	19	・入館者100万人達成（開館251日目）	
	15	鳥取県農林水産部大規模活性化プロジェクト推進 室室長補佐等	20	大津市南郷小学校教員 日本生態学会常任委員等 岐阜県高等学校理科教育研究会 安土町立老蘇小学校教員	
	16	・防火訓練（避難誘導と通常訓練の実施） 滋賀県高等学校教育研究会工業部会 八日市土木協会管内市町管理・建築事務担当者研 修会 東濃地区社会指導員連絡協議会	21	水資源開発公団（中華人民共和国三峡プロジェク ト訪日団） 滋賀県小中学校教育研究会理科部会	
	17	滋賀県教育委員会生涯学習課「国際青年育成交流 事業」	22	滋賀県小学校教育研究会家庭科部会研修	
	18	(社)滋賀県環境アセスメント協会 地方職員共済組合近畿地区事務長会議 滋賀県企画県民部部門研修会	23	防府市教育委員会生涯学習施設準備室	
	21	八幡青年会議所委員長等	26	豊橋市石巻自然科学資料館研究委員会委員等 マラウイ灌漑局長等 近畿中国農業試験場研究推進会議生物工学部会 草津市教育委員会「草津チャレンジクラブ」	
	23	仏教大学学生・教官 滋賀県公立小中学校事務研究協議会 守山市統計調査員 長野県下諏訪町長等	27	大阪市港湾局企画振興部開発課等	
	24	在阪道府県協議会第三部会林水部会 滋賀県農政水産部部門研修	28	立命館大学びわこ・くさつキャンパス教職員	
	25	・策1回高等学校理科教育研究会開催 滋賀大学教育学部学生・教官 合瀬川の清流を取りもどす会（小牧市職員等）	29	近畿府県赤十字支部事務局長等	
	26	観音寺市議会議員等 滋賀県臨床衛生検査技師会 彦根市教育委員会生涯学習課	31	滋賀中部地域行政組合 ・企画展「古代湖の世界」終了	
	27	韓国ソウル特別市虞原中学校等 環境セミナー	9	1 ・湖南省研修生李易志さん6か月研修受入 2 滋賀県農業土木技術連盟 岐阜県穂積町園長・校長会 近畿ブロック中小企業振興公社	
	29	東京都北区議会議員 金沢市中学校教育研究会理科部会 奈良県生物教育会		3 梅光女学院大学博物館学課程学生等 岐阜・三重・滋賀県際懇談会（梶原岐阜県知事、 北川三重県知事、稲葉滋賀県知事等） 亀岡市教育委員会社会教育課 自治省大臣官房参事官等	
	30	下関市議会議員等		4 宝塚市立公立学校教頭 京都府綴喜郡地方小・中学校教頭 越前町職員 阪神水道企業団監査委員等 農村整備連盟彦根支部 アジア太平洋統計研修所研修生等	
	31	埼玉県環境科学国際センター整備室 神奈川県県民部次長等 近畿府県下水道主管次長・課長会議		5 滋賀県農地集団化技術者協議会・滋賀県土地改良 換地士部会 農林水産省農業水利研究会	
	8	1		フィリピン国家かんがい庁 (社)全国旅行業協会 湖北町人づくり交流振興会	
		4		・滋賀県立琵琶湖博物館実習生受入事業開始	
		5	滋賀工業会企業行動研究会会員 京都観光リザーブセンター 全国市町村国際文化研修所（都道府県市町村振興 協会事務担当者）		

月日	主な来館者・行事等	月日	主な来館者・行事等
9 5	姫路科学館代表等 JICA研修生受入(中国・日中友好環境保全センターエンジニア)	10 21	大阪府高等学校定時制通信制教育研究会 勤婦人少年協会・女性の歴史と未来館開設準備室 勤東海建築文化センター内中部建築賞協議会
7	石川県に自然史博物館を実現する会	22	中部地方建設局入札監視委員会副委員長 勤大阪技術振興協会環境部会技術士 滋賀県高等学校教育研究会家庭部会・北地区各高校家庭科教員
9~12	・収蔵庫くん蒸作業のため休館		
13	日本下水道文化研究会関西支部		
17	・バーコードによる図書貸出返却業務開始 滋賀バルブ協同組合 琵琶湖湖南・中部地区リゾート整備推進協議会	23	伊丹市水道局経済企業常任委員会委員等 水資源開発公団本社 湖南省衡陽市政府代表团
18	大阪市立科学館副館長等		
19	・琵琶湖環境部部門研修・川那部館長講演 滋賀県漁場環境監視員、協力漁協漁場監視担当者 建設省近畿地方建設局総務部等 勤滋賀県建設産業団体連合会 勤科学技術と経済の会	24	中国湖南省職工消費合作社交流団 香川県歴史博物館建設準備室長等 甲賀郡理科部会(石部中学等)
27	・川那部館長が、アメリカ芸術科学アカデミーの外国人名誉会員に選ばれる	25	広域都市開発研究部会(茨城県・栃本県・群馬県)
30	柏原市水道部 水資源開発公団関西支社建設部長等	26	大野市文化財保護委員会等
10 1	・夏休み相談実で絶滅危惧種のミズアオイを確認 勤日本水環境学会研修員	28	勤東山公園協会
2	秋田県立博物館「ニューミュージアム21」検討委員会委員等	29	全国社会福祉事業団協議会年金委員等 日本国際協力センター(8か国) 阪神水道企業団議員等 環境庁政務次官等 京都文京女子中学校
3	富士市教育委員等 神戸市建設局参与等	30	三和総合研究所研究員等 環境科学に関する国際ワークショップ参加カナダ国研究者等 大韓民国監査院委員 水資源開発公団霞ヶ浦開発総合管理所 水資源開発公団本社
4	大津公民館利用団体連絡協議会等	31	新潟市教育委員会生涯学習部長等 勤西宮市文化振興財団理事等
7	淡海生涯カレッジ実験・実習講座 秋田県環境保全課等 韓国・済州島旅行社 愛媛大学名誉教授・愛媛県調査役等		
9	広島市教育委員会生涯学習部文化課主査 東山保健協議会連合会		
10	・琵琶湖博物館開館1周年企画展「私とあなたの琵琶湖アルバム」開催	11 1	京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科
12	東濃研究学園都市推進連絡協議会	2	海遊館飼育展示部設備課 ・水族企画展「北海道の淡水魚たち」
14	青垣いきものふれあいの里友の会 水資源開発公団JICA研修員	4	・滋賀県科学振興委員会
15	島根県議会議員等 JICA集団研修(農業・農村開発環境保全コース)	5	・第7回生態学琵琶湖賞授賞式
16	四日市土木事務所管内土木事業促進連絡協議会 埼玉県総務部財政課主幹等	7	ミュージアムパーク茨城自然博物館企画課長 在名道府県連絡協議会 勤滋賀県下水道公社
17	兵庫県立人と自然の博物館館長等 産業技術博物館(仮称)構想実現化調査委員会 全国住環境整備事業幹部職員	10	新潟県議会総務文教委員等
19	建退共近畿ブロック事務担当者 滋賀県名古屋観光物産情報センター・名古屋滋賀県人会 ・琵琶湖博物館開館1周年記念「琵琶湖とひととの未来考」シンポジウム	11	近畿ブロック河川担当者 勤地域総合整備財団理事長 ・第1回歴史資料担当者研修会開催
20	・滋賀県立琵琶湖博物館協議会開催	12	水資源開発公団本社 神奈川県立自然保護センター副主幹 神戸大学工学部建設学科土木系教室学生・教官 近畿地区高等学校通信制教員
21	勤プランニングネットワーク東北専務理事等 日本学術振興会「アジア地域の環境保全」研究推進委員会		岐阜県議会県土活性化対策特別委員会委員等 漁業保全対策推進事業内水面ブロック会議 福岡県総務部国立博物館対策室技術主査等

月日	主な来館者・行事等	月日	主な来館者・行事等
11 13	近畿各府県出納長等 文部省大臣官房文教施設部大阪工事事務所長等 庄内商工会青年部 湖南省教育代表団・唐湖南省人民政府副省長等 都道府県・指定都市道路連絡協議会	12 2	水資源開発公団中部支社 滋賀県環境保全協会環境啓発アドバイザー
14	近畿電気通信監理局検査官 建設省近畿地方建設局淀川工事事務所用地課等 近畿ブロック工業用水道担当者会議	3	広島市都市整備局臨海開発室次長等
15	国際日本文化研究センター	4	彦根市高宮地域文化センター運営委員 滋賀県小学校教育研究会家庭科部会
16	・「足もとから環境について考えてみよう」地球環境基金とNGO・市民の集い、地球市民大学校	5	大阪府河川協会市町村職員および大阪府職員 TEPCO銀座館室内部長等 大阪府文化財愛護推進委員 美濃加茂市小中学校教務主任等
18	・ポストンチルドレンズ ミュージアムのダイアン・ウィロー氏来館講演 ・滋賀県博物館協議会研修会(MIHOミュージアム)	6	ブラジル国リオ・グランデ・ド・スール州副知事、経済代表団 地球温暖化防止京都会議提供ツアー 近畿地区二級木造建築士試験委員協議会
19	静岡県・水産部長等 新潟市教育委員会教育委員長等 福井県議会総務教育常任委員会委員 公立学校共済組合本部 佐賀県監査委員 奈良県香芝市水道局 奈良県磯城郡小学校教育研究会理科部会 長野県総合開発審議会委員等	9	大韓民国環境部長官等
20	三市二町公害対策連絡協議会 尼崎市議会議員等 広島県議会議員等 川崎市青少年科学館改築基本構想策定委員会 山梨県学術文化財課 熊本博物館協議会委員等	10	岩手県企画振興部次長等
21	・滋賀県博物館協議会理事会 琵琶湖開発総合管理業務会議 浜松市博物館協議会委員等	11	湖西地区高等学校等初任者地域研修 奈良県宇陀郡大宇陀町教頭会 水口高等学校理科体験学習
22	小樽市博物館主任学芸員	13	草津市教育委員会チャレンジクラブ 日本まんなか岐阜・滋賀留学生モニターツアー
23	山口県教育庁教育企画室企画員等	16	ハンガリー国「湖沼水質保全」研修
24	世界河川会議・中国水利部長江水利委員会等	17	文化ゾーン連絡調整会議 労働省女性局長等 産業環境管理協会台湾研修員
26	滋賀大学国際シンポジウム'97実行委員会外国人招待者等 兵庫県環境保全管理者協会 九州地建川辺川工事事務所 近畿府県広報広聴主管課長等 松戸市教育委員会文化ホール館長補佐等 自治省行政局振興課市町村振興係長 霞ヶ浦問題協議会40市町村担当課長 長崎県企画部地域政策課係長等	18	宮内庁書陵部編修課等 大阪工業会 滋賀県景観審議会委員
27	海部地区(1市12町村)公民館・社会教育担当者 春野町総務課等 モンゴル馬頭琴交響楽団・スタッフ 岐阜県博物館同人・サポーター	23	三重県阿山郡鳥ヶ原村小学校教員
28	天理大学人間学部人間関係学科生涯教育専攻学生・講師	25	・烏丸半島夜間閉鎖開始
29	すいた市民環境会議市民 ・北京自然博物館副館長・主任研究員来館	27	・仕事納め
30		1 6	・仕事始め
		8	全国旅行ペンクラブ取材事業・湖南地域観光振興協議会
		10	滋賀県立朽木いきものふれあいの里
		14	モンゴル国オユンビレグ大統領夫人等 大阪府および府下市町村の営繕業務担当部課職員
		16	滋賀県博物館協議会総会
		18	感動わかやま21推進女性団体連絡会
		20	島根県水と魚の自然館(仮称)基本計画検討委員会
		21	・世界古代湖会議実行委員会開催 ・琵琶湖博物館学芸員採用試験実施
		22	石狩市教育委員会文化財・博物館開設準備室室長等 建設省関東地建霞ヶ浦工事事務所等
		22	・守山市赤野井湾遺跡出土遺物から現生種のコイと異なる特徴をもつコイの咽頭歯が1点発見された。
		23	水資源開発公団豊川用水総合事務所 インドネシア共和国東ジャワ州研修生等(大阪府環境政策課)
		24	北海道大学教授等
		27	勸励滋賀県レイカディア振興財団 農林水産省構造改善局水利課等 千葉県君津市議会議員

月日	主な来館者・行事等	月日	主な来館者・行事等
1 27	・50万年前の生息を示すツルと見られる鳥類の足跡化石が見つかる。	2 26	浜松科学館運営委員等 マキノ町郷土文化保存伝習施設
28	建設省関東地方建設局川崎国道工事事務所副所長等	27	水資源開発公団本社企画部等 滋賀県立高等学校事務職員協会 北海道開拓記念館
29	・国土審議会近畿圏整備特別委員会第12回計画部会(国土庁主催) 兵庫県社会教育・文化財課 兵庫県洲本土木事務所長等 水資源開発公団中部支社等	28	(財)日本科学技術振興財団
30	・滋賀県博物館協議会研修会(於:能登川総合文化情報センター) 横浜国立大学工学部建築学科教授等 福知山市議会議員等 近江八幡市職員 浜松市文化財保護審議会委員等 JICA湖沼水質保全コース研修員等	3 1	・フィールドレポーター交流会開催
		3	・滋賀県立大学・試験研究機関協議会設立会議(於:滋賀県立大学) 水資源開発公団地下水観測員 学校法人人則天学園日本海洋科学専門学校(生物工学科、地球環境学科、グリーンバイオ学科) 愛媛県歴史文化博物館 (財)大阪港開発技術協会
		4	高知県立歴史民族資料館
		5	神奈川県立生命の星・地球博物館 鯖江市教育委員会
		6	滋賀県水産後継者連絡協議会 しながわ水族館 滋賀県高等学校理科教育研究会生物部会陸水研究部門研修会
		10	福井県教育庁学校教育課
		10~	・総合・共同研究審査会開催
		11	
		11	函館市立博物館
		12	ボリビア大使館 建設省河川局河川計画課 群馬県環境生活部長等 岐阜県水産試験場 文部省社会教育課施設係
		13	兵庫県文化財課
		14	長野県立歴史館
		18	JR旅連京滋会議 兵庫県立歴史博物館
		19	近畿運輸局
		20	自治省財務調査官 文化庁会計課長 国土庁地方振興局地方都市整備課等 愛知県設備設計管理協会
		22	滋賀県教育委員会
		24	福岡市財政部土地調整課等 淀川上・工水連絡協議会事務局
		27	熊本県菊池郡七城町 熊本市動物園
		30	・ミニシンポ「生物多様性と保全生態学」開催
2 1	・企画展「私とあなたの琵琶湖アルバム」終了		
3	生駒市小学校教育振興会社会科部会		
4	・水族企画展「北梅道の淡水魚」終了 福島県教育庁文化課長等 鹿児島県立博物館		
5	自治省行政局公務員部給与課等		
6	奈良県、和歌山県教育委員会教職員課等		
7	滋賀県立北大津高等学校		
10	・インストラクターによる展示室でのフロアトーク開始(試行)		
11	(財)国際環境技術移転研究センター		
13	滋賀県高等学校理科教育研究会 企業庁南部工業用水受水企業 建設省中部地方建設局河川部等 愛知県商工部21世紀国際博覧会推進局計画課 奈良県高等学校校長会		
14	草津市教育委員会「チャレンジクラブ」		
15	マラウイ大学ブンダ農科大学校副校長等 国際農業者フォーラム実行委員会		
17	滋賀県犬上郡町村議長会 (財)札幌市公園緑化協会 滋賀県高等学校教育研究会学校図書館部会		
18	山梨県富士吉田市教育委員会文化財審議会委員等 自治省税務局府県税課等 岩手県立博物館 茨城県企画部・土地計画課 北海道建設部建築整備室計画調整課等		
19	九州歴史資料館総務課長 広島市交通科学館 静岡市企画部文化振興課 沖縄県中頭教育事務所 (財)瀬戸内海環境保全協会		
24	徳島県立博物館主幹 沖縄県平和記念資料館 水資源開発公団中部支社等		
25	近畿地方公共工事契約業務連絡協議会		
26	茨城県教育庁文化課		

V 博物館利用のご案内

- 開館時間 AM 9 : 30～PM 5 : 00 (入館はPM 4 : 30まで)
- 休館日 毎週月曜日 (休日である場合を除く。)・休日の翌日 (土・日曜となる場合を除く。)
・年末年始 (12月28日～1月4日)
- 観覧料金 (常設展)

	個人	団体 (20人以上)	共通券 (*)
小学生・中学生	250円	200円	320円
高校生・大学生	400円	320円	520円
大人	500円	400円	650円

※未就学児、県内居住の65歳以上の方と障害のある方ならびに学校行事としての観覧は無料です。
(詳細についてはご確認ください。)

※企画展は別途料金となります。(開催期間中)

*草津市立水生植物公園「みずの森」との共通券。なお、団体は取り扱いません。

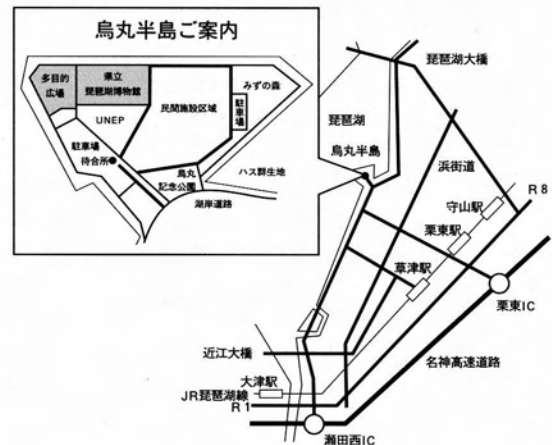
■交通案内

- JR新幹線「京都駅」「米原駅」からJR琵琶湖線(東海道)線に乗り換え「草津駅」「栗東駅」「守山駅」で下車。
 - ・「草津駅西口」から、近江鉄道バス「鳥丸半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車(約22分)。タクシーで約20分。
 - ・「栗東駅西口」からタクシーで約15分、「守山駅西口」からタクシーで約20分。
- 車では、名神高速道路「栗東IC」から国道1号線を草津方面へ。信号2つ目「上鈎」で右折。湖岸道路につき当たって(「湖岸志那中町」)再度右折し、約1kmで「鳥丸半島」へ。
- 航路では、琵琶湖汽船のシャトルボートが「大津港」「びわこ大橋港」「堅田港」「雄琴温泉港」から「草津鳥丸半島港」へ
(問い合わせ先: 琵琶湖汽船)

■駐車料金

大型バス	1,520円	マイクロバス	1,010円
普通者*	500円	二輪車	200円

*博物館観覧者が使用する普通車と二輪車は無料扱いとなります。



【館内のご案内】

- 質問コーナー: 学芸員が図書室のカウンターでみなさんからのご質問にお答えしています。
- フロアトーク: 平日には学芸員がPM 2 : 00から担当の展示コーナーで説明を行っています。

【催し物案内】

- ミュージアム観察会: 博物館のまわりで自然観察したり、館内の施設で実験・実習を行います。
- フィールド観察会: 県内各地のフィールドで地域の自然や人々の暮らしを見つめ直します。
- 博物館探検: 普段は見ることのできない博物館や展示室の裏側を学芸員が紹介します。
- 博物館講座: 一般の方を対象に専門的な内容をわかりやすく数回連続でお話しします。
- 博物館入門セミナー: 琵琶湖博物館の活動や展示を幅広く知ることのできる連続講座です。
(事前に往復ハガキで申し込んでください。詳しくは、Faxサービス (077-568-4844)、インターネットホームページ (<http://www.lbm.go.jp/>) で案内しています。)

年 報

第 2 号

発行年月	平成11 (1999) 年 2 月
編集・発行	滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県草津市下物町1091番地 TEL 077-568-4811
印 刷	株式会社スマイ印刷工業 滋賀県栗太郡栗東町川辺568-2 TEL 077-552-1045

この冊子は古紙配合率70%の再生紙を使用しています。

